

平成 24 年度
教育行政の執行状況に関する点検評価報告書
(平成 23 年度事業対象)

夕張市教育委員会

目 次

1	はじめに	1
2	点検評価の基本方針	2
3	事業評価の判断基準	2
4	評価委員会の設置	3
5	評価委員会のまとめ	3
6	点検評価の結果	
(1)	安全安心な通学体制の整備	4
	①スクールバス運営 ②遠距離通学支援 ③児童生徒通学安全対策（添乗員の配置） ④小中学校通学費補助 ⑤児童生徒通学安全対策（待合所設置）⑥児童見守りサービス	
(2)	地域全体で学校を支える体制の充実	11
	①学校支援地域本部事業 ②夕張市小中学校サポート会議	
(3)	小・中学校教育の充実	14
	①生徒指導対策 ②ことばの教室運営 ③障がい児教育促進協議会補助④総合学習実践 ⑤中学校体育大会開催⑥特別支援学級運営⑦外国語指導充実⑧中1ギャップ問題未然防止 ⑨地域ICT利活用広域連携（デジタル教材）⑩特別支援教育支援員配置	
(4)	学校施設設備の整備	25
	①小中学校校舎維持補修 ②小中学校教材教具整備 ③小中学校管理業務 ④夕張中学校 落雪対策	
(5)	児童生徒の健康管理及び学校給食の充実	30
	①小学校給食運営 ②中学校給食運営 ③中学校給食業務 ④児童生徒の健康管理	
(6)	幼稚園教育の充実	35
(7)	文化振興	36
	①児童生徒鑑賞教室 ②公民館事業 ③ふるさとギャラリー事業 ④生涯学習プロジェクト事業 ⑤文化財保護事業 ⑥図書コーナー事業	
(8)	スポーツの振興	43
	①文化スポーツセンター管理 ②平和運動公園管理 ③体育施設管理 ④清水沢プール管理	
7	資料	48
	・平成24年度夕張市教育行政評価実施要綱 ・夕張市教育行政評価委員会設置要綱 ・夕張市教育行政評価委員会実施要綱 ・夕張市教育行政評価委員会開催経過 ・平成23年度夕張市教育行政執行方針	

1 はじめに

教育委員会は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条に基づき、毎年事務の管理と執行状況について点検評価し、その結果報告書を議会に提出するとともに、市民に公表しなければなりません。本報告書は夕張市教育委員会が行った平成23年度の主な事業について自らが点検評価すると共に、その客観性を確保するため市内の学識経験者で構成する夕張市教育行政評価委員会の評価と意見を付して結果をまとめたものです。

平成23年度は長期的な児童生徒数の減少傾向を踏まえた小中学校1校化の方針に基づき、新生「ゆうばり小学校」が開校しました。夕張の未来を担う子ども達が創造性にあふれ、心身とも逞しく成長していくことを展望し、地域との連携、地域の方々との協働を通して夕張ならではの新しい学校づくりを進めるため、地域と学校のパイプ役となる「夕張市小中学校サポート会議」を立ち上げました。また、幼・小・中・高の学校間連携を進めるための「夕張市学校連携協議会」を立ち上げるとともに、特別な支援を要する子ども達を、関係者が有機的に支援するため、「夕張市特別支援教育連携協議会」も立ち上げてまいりました。

また、市民一人ひとりが豊かな文化やスポーツに親しみ、生きがいをもって生活できる生涯学習社会を展望し、文化団体、体育団体、各種市民団体やサークル等と連携し、市民の協力と協働の力により様々な社会教育事業を進めてまいりました。

以下は平成23年度に教育委員会が行った、主な事業8項目についてのまとめです。

(1) 安全安心な通学体制の整備

小中学校統合に伴う、児童生徒の安全安心な通学体制を確保するため、学校、家庭、バス会社、市民ボランティアなどとの連携体制や、バス添乗員の配置、児童見守りシステムなどソフト面の整備を進めるとともに、バス待合所などハード面での整備を行い体制はほぼ整いました。

今後新たに生じる課題については「夕張市通学方法等検討委員会」の機能を十分に活用し、必要な見直しをおこなうとともに、通学路の安全確保やバス停車帯など交通安全施設の設置について引き続き関係機関に要望してまいります。

(2) 地域全体で学校を支える体制の充実

小中学校の1校化による夕張ならではの新しい学校づくりを見据え、地域の教育力を活性化するためオール夕張で学校を支援する活動や、地域に開かれた学校づくりを進めるため、学校支援地域本部事業の充実に努めるとともに、地域と学校のパイプ役として夕張市小中学校サポート会議を設置し、新しい学校づくりを進めるための体制を整備しました。

(3) 小・中学校教育の充実

小中学校統合後の新しい学校づくりを展望し、学ぶことに楽しさや成就感を持ち、基礎的な力を着実に定着させる学習指導と、活力に富む諸活動の充実を図るため、中学校におけるデジタル教材の活用、中1ギャップ問題未然防止事業、総合的学習実践、外国語指導充実、特別支援教育の充実などの諸事業を進めてまいりました。

(4) 学校施設設備の整備

教材・教具、学校備品等教育条件整備と校舎の維持補修については、児童生徒の学習活動に

支障が生じないよう整備に努めてまいりました。永年の懸案であった夕張中学校体育館の落雪対策については、抜本的な落雪対策のための落雪防護柵設置に向け調査・設計を行い、平成24年の冬までに工事を完了する見込みとなりました。

(5) 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実

児童生徒の健康管理については、学校医や養護教諭と連携し、学校保健法に基づく必要な検査等を行い、疾病の早期発見に努めるとともに、インフルエンザ等感染症については関係機関と連携し感染拡大の予防に努めてまいりました。

学校給食については、児童生徒の発達段階に即した給食の充実を図るため、食に対する指導と実践を通じ、食育の充実と保健所など関係機関と連携し、食中毒など給食事故の未然防止に努めてまいりました。

(6) 幼稚園教育の充実

創造性にあふれ、心豊かな子どもの育成のため、地域の学校、保育園、福祉施設などとの交流や外国語指導助手（ALT）による英語遊び、野菜栽培による食育教育の充実など魅力ある幼稚園づくりに努めてまいりました。また、3・4歳児の混合保育については、幼児の数が減少する中、園児の確保に大きな成果をあげています。

(7) 文化振興

市民一人ひとりが心豊かに充実した生活を送れるよう、公民館事業、生涯学習プロジェクト事業、ふるさとギャラリー事業など、市民ボランティアや道教育大学岩見沢校との協働の力を通し生涯学習の機会を提供してまいりました。また、児童生徒鑑賞教室については、子ども達の豊かな情操を育む目的で小・中学校において実施し好評を得ております。

(8) スポーツ振興

子どもからお年寄りまで、気軽に楽しくスポーツやレクリエーション活動に参加できるよう、各スポーツ施設について利用者の利便性を考慮しつつ合理的な運営に努めました。

また、これらの施設において開催されるスポーツ大会等の実施にあたっては、必要な支援協力を行う中で、スポーツの振興と施設の有効活用を図り、地域の活性化の一助ともなっている。

2 点検評価の基本方針

(1) 目的

夕張市教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行状況を自ら点検評価し、その結果を議会に報告するとともに市民に公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たしていくことを目的としています。

(2) 点検評価の対象及び方法

点検評価の対象は、平成23年度予算に計上し実施した教育委員会所管の主要な事業とし、その取り組み状況と成果について教育委員会が点検評価を行いました。

3 事業評価の判断基準

○達成度 A 事業が十分に達成された（9割以上）

- B 事業が相当程度達成された（7割～8割）
 - C 事業の達成度がやや不十分である（5割～6割）
 - D 事業が達成されなかった（5割以下）
- 事業効果
- A 十分な事業効果が得られた（9割以上）
 - B 相当程度の事業効果が得られた（7割～8割）
 - C 事業効果がやや不十分である（5割～6割）
 - D 事業効果が不十分である（5割以下）

4 評価委員会の設置

教育委員会が行った点検評価の客観性を確保するため、夕張市教育行政評価委員会を設置し、教育に見識を有する方5名のご意見と評価を頂きました。

- 評価区分
- A 順調 順調に事業が達成されている（9割以上）
 - B ほぼ順調 概ね順調に事業が達成されている（7割～8割）
 - C 努力を要する 事業の達成度が不十分（7割以下）

5 評価委員会のまとめ

少子高齢化と過疎化による児童生徒数の急激な減少、財政再生団体としての厳しい財政状況の下、教育行政の執行に地道な取り組みを行っており、関係者の苦心と努力の跡が伺えます。

今後も常に新たな視点で改善を図るとともに、地域や市民の実情に沿った取り組みを工夫し、教育の質の一層の向上に努められるよう強く願います。

学校教育については、広域な市内に小・中学校が各1校体制となった現在、地域の多くの皆さんが教育に関心を持ち、幅広い市民の力で学校を支えていくことが求められています。そのための仕組みづくりと、地域の皆さんの意見を新しい学校づくりに反映させることが必要です。

夕張市の教育目標である、「故郷ゆうばりに誇りを持ち、自主自立の精神を養い、心豊かに夢や希望をもち、その実現に向かいたくましく生きる人」を育むため、市民総ぐるみで学校を支える体制を育て、子ども達がこの夕張の地で生まれ育って良かったと、振り返ることができるような教育を進めることを願います。

社会教育活動については、事業予算が大幅に削減される中、市民ボランティアなどの力による新しい生涯学習支援の形が育っています。市民生活の礎である「地域」を元気にするためには、そこに住む一人ひとりの力の結集が不可欠です。社会教育活動の主人公は言うまでもなく市民であり、より豊かなまちをつくるためには、自主性・自発性・創造性をもった市民の育成が大切です。子どもからお年寄りまで、幅広い層の市民が気軽に社会教育事業やスポーツに親しみ、心身ともに豊かで、潤いのある生活を営むことができる、文化の香り高い夕張をめざし、文化団体、体育団体、市民サークル等と連携し事業を推進されるよう願うものです。

なお、平成23年度教育委員会事業の個別評価及び意見については、4頁以降の教育行政点検評価表（総括表）に記載しました。

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

事務事業名	1 安全安心な通学体制の整備	担当課	教育課 学校教育・社会教育・社会体育		
目的及び概要	小・中学校の統合により、約65%の児童生徒が路線バスなどを利用して通学しているため、事故なく安全に通学できるよう、学校支援ボランティアや市民団体との連携を強化するとともに、ハード、ソフト両面における安全安心対策の充実を図る。				
平成23年度の主な事務事業名及び決算額	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)	
	(1) スクールバス運営	4,963	4,773	190	
	(2) 遠距離通学支援(タクシー運行委託)	3,955	1,532	2,423	
	(3) 児童生徒通学安全対策事業(バス添乗員)	375	178	197	
	(4) 小・中学校通学費援助(定期券代)	22,882	22,735	147	
	(5) 児童生徒通学安全対策(バス待合所設置)	1,103	1,061	42	
	(6) 児童見守りサービス	1,290	1,260	30	
事業実績及び効果	別紙(細目) (1)～(6)に記載				
課題	別紙(細目) (1)～(6)に記載				
今後の方向性	安全安心な通学体制の整備は、小・中学校の統合により生じた事業であり、新たに生じた課題については必要な見直しを行う必要がある。そのため定期的に説明会を開催し、保護者の生の声を聴くとともに、通学に関わる関係者で構成する夕張市通学方法等検討委員会において、課題の共通理解とその対応策について協議を行います。				
教育委員会の自己評価					
事業達成度	事業効果	本事業は、平成21年度から取り組みを始め、中学校を1校化した平成22年度から運用を開始し、平成23年度の小学校1校化により全面運用している。ハード・ソフト両面の安全・安心対策についてはほぼ形が出来上がり、大きな混乱もなく比較的順調に進んでいる。今後事業を進める中で生じる新たな課題は、事業内容を検証しながら必要に応じ見直しを行うと共に、児童生徒の安全・安心の確保を最優先に考え、信号機やバス停車帯の設置などの継続した要望活動を行う。また、各バス停などにおける学校支援地域本部を中心とした児童見守り体制の安定的な運用に努める必要がある。			
B	B				
評価委員会の評価判定及び意見					
判定	児童生徒の安全安心な通学の確保のため、市内各バス停に見守りボランティアを配置するなど、他市町では見られないような素晴らしい取り組みが行われている。また、バスの乗車マナーや乗降時の安全指導については、年度当初(1月間)に添乗員(市臨時職員)が、学期始などには市教委職員や学校職員が添乗し指導にあたっている。さらに安全安心な通学体制の確保と円滑なバス運行のため、保護者、学校、バス会社、市教委など関係者の協議の場である「夕張市通学方法等検討委員会」が設置され、一定の機能を果たしていることも評価できる。バスの安全な乗降や乗車マナーについても三者の円滑な連携が重要と考える。今後も通学の安全安心の確保と、より良いバス運行に努めていただきたい。				
B					
<ul style="list-style-type: none"> ・夕張市通学方法等検討委員会の設置は妥当と考える。見守りボランティアのご意見や添乗指導した結果について、その都度学校と情報を交換することが指導の徹底につながることから、市民ボランティアなどとの交流の持ち方について検討する必要がある。 ・児童生徒の安全安心な通学のため、今後も必要に応じ教職員や市教委職員によるバス添乗が必要である。 ・通学の安全確保のため、バス停の整備や信号機等の設置について引き続き関係機関に要請する必要がある。 ・校外での学習を拡充するため、スクールバスのより柔軟な運行が求められる。 					

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	1 安全安心な通学体制の整備	担当課	教育課	(学校教育・社会教育・社会体育)														
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)														
	(1) スクールバス運営	4,963	4,773	190														
事業実績及び効果	<p>○事業実績</p> <p>平成22年度の中学校統合及び平成23年度の小学校統合に伴い、南部地区児童生徒の登校便1便及び富野地区等児童生徒の下校用として5便のスクールバス運行をバス会社に委託している。また、学校行事等に伴う児童・生徒送迎用としても活用している。</p> <p>平成23年度実績</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">南部登校便～ゆうばり小学校</td> <td style="text-align: right;">210日</td> <td style="text-align: right;">210回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">南部登校便～夕張中学校</td> <td style="text-align: right;">205日</td> <td style="text-align: right;">205回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">ゆうばり小学校下校便～富野</td> <td style="text-align: right;">210日</td> <td style="text-align: right;">405回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">夕張中学校下校便～富野</td> <td style="text-align: right;">205日</td> <td style="text-align: right;">456回</td> </tr> </table> <p>○効果</p> <p>小中学校の1校化により、全児童生徒の約65%がバス通学しているが、円滑な通学を確保するためには、路線バスを中心としながらも、スクールバスの果たす役割は大きいものがある。</p> <p>平成23年度の小学校統合により夕張中学校及びゆうばり小学校に通学する、南部地区の児童・生徒の登校便（下校は路線バス）として、また、富野地区の児童・生徒の下校用（登校は路線バス）として、悪天候時においても確実に運行している。</p>						南部登校便～ゆうばり小学校	210日	210回	南部登校便～夕張中学校	205日	205回	ゆうばり小学校下校便～富野	210日	405回	夕張中学校下校便～富野	205日	456回
南部登校便～ゆうばり小学校	210日	210回																
南部登校便～夕張中学校	205日	205回																
ゆうばり小学校下校便～富野	210日	405回																
夕張中学校下校便～富野	205日	456回																
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・市の単独費用で運行委託しているため、安定した財源の確保と、将来的には車両更新のための財源の確保が必要。 ・スクールバスは路線バスの運行とリンクした運行形態となるため、学校及びバス会社との密な連携を要する。 																	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスを利用する児童生徒の居住地等に大きな変動がない間は、南部地区に居住する児童生徒の登校便として、また、富野地区に居住する児童生徒の下校便として活用する。 ・スクールバスの運行にあたっては、年間学校行事等を踏まえ、学校及びバス会社との連携を密にし合理的な運行に努める。 																	
教育委員会の自己評価																		
事業達成度	事業効果																	
A	A	<p>平成23年度以降は小学校統合により、路線バスを中心とした通学体制を取っているが、富野地区児童の下校時における若菜ターミナルでの乗換え対策の為に、スクールバスの活用は不可欠なものである。また、小・中学校の行事等における、バスダイヤに縛られない柔軟な運行も期待できることから、今後も安定的かつ継続した事業実施が必要である。</p>																

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	1 安全安心な通学体制の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(2) 遠距離通学支援(タクシー運行委託)	3,955	1,532	2,423		
事業実績及び効果	<p>○事業実績</p> <p>遠距離通学が必要で、路線バスによる通学が困難な特別支援教室等に在籍する児童生徒のためにタクシーを借上げ通学を確保するもの。</p> <p>平成23年度実績</p> <p>登川方面 小学生2名・中学生1名 203日 553回</p> <p>本町方面 小学生1名 204日 381回</p> <p>○効果</p> <p>特別な支援を要する児童・生徒の安全安心な通学のためには必要不可欠な事業であり、悪天候時にも確実に運行されたもの。</p>					
課 題	平成23年度に小・中学校が1校体制となり、通学区域が全市となったことから、特別支援学級等の児童生徒が多方面でのタクシー利用となることが想定されるため、登下校時に必要な台数のタクシーを確実に確保する必要がある。					
今後の方向性	平成23年度より全市バス通学となったことから、特別支援学級に在籍し、路線バスの利用が困難な児童生徒に対しては、市内のタクシー会社と適切な委託契約を結び、児童生徒の実情に合った通学手段を確保する。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	平成23年度以降は、南部地区を除く旧清水沢小・中学校以外の児童生徒は、路線バスを中心とした通学体制となったが、特別な支援を要する児童生徒については、引き続きタクシーを利用した通学が必要であるため、今後も児童生徒の実情を踏まえた、きめ細かな事業実施が必要である。				
A	A					

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	1 安全安心な通学体制の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(3) 児童生徒通学安全対策（バス添乗員）	375	178	197		
事業実績及び効果	<p>○事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校統合に関わる通学方法説明会における保護者からの要望を受け、児童生徒が通学に利用する路線バスに添乗員を毎年度4月から1ヶ月間配置するもの。 ・平成23年度は、ゆうばり小学校統合の初年度であることから、登下校便に10人の添乗員を雇用した。 ・添乗1回あたりの賃金は750円を予算計上した。 <p>○効果</p> <p>バス通学する児童生徒に対し、乗車マナーや安全な乗降方法などを指導することにより、人命に関わるような事故もなく、安全・安心なバス通学に寄与している。</p>					
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・添乗業務の負担が大きいことから希望者が少なく、継続した人材確保が難しい。 ・添乗して明らかとなった課題を学校や家庭にフィードバックし、安全なバス乗車について継続的な指導を行う必要がある。 					
今後の方向性	<p>配置期間については、保護者の意見を参考に乗車の習熟を考慮し毎年度4月の1ヶ月間としたが、保護者を対象にした通学方法説明会において意見を伺い、配置期間を検討する必要がある。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>平成22年度に試行的に行った添乗指導により明らかとなった課題（基本的な公共交通機関の利用方法）を踏まえ、平成23年度は5路線の登下校便に10名の添乗員を配置し、ゆうばり小学校の児童を中心に乗車マナーや安全な乗降方法などの指導を行った。本事業の実施により児童生徒及び保護者の安全・安心の確保に相当程度の効果があったものとするが、児童・生徒に対する乗車マナー、乗降方法等の指導については、今後も継続的に実施する必要がある。</p>				
B	B					

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	1 安全安心な通学体制の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育								
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)								
	(4) 小・中学校通学費援助（定期券代）	22,882	22,735	147								
事業実績及び効果	<p>○事業の実績</p> <p>学校の再編統合により、徒歩通学が困難な児童生徒が路線バスを利用して通学するために必要な経費を市が負担するもので、小・中学生についてバス定期券を市が一括購入し保護者に現物支給している。</p> <p>平成23年4月当初における通学費給付及び定期券交付状況</p> <table border="1"> <tr> <td>小学生</td> <td>189人</td> <td>10,800,960 円（定期券交付）</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>109人</td> <td>11,673,860 円（定期券交付）</td> </tr> </table> <p>※生活保護費受給者については通学費相当分が支給されるため、教育費での市費負担はない。</p> <p>○効果</p> <p>バス定期券については、保護者が指定する自宅から最も合理的なバス停から学校までの定期券（1年定期）を、市がバス会社との契約により一括購入し、個々の保護者に交付しているため、合理的かつ確実に児童生徒の通学が保障される。</p> <p>また、定期券の紛失については、1回に限り無償で再発行を行っており、保護者に配慮した対応を行っている。</p>						小学生	189人	10,800,960 円（定期券交付）	中学生	109人	11,673,860 円（定期券交付）
小学生	189人	10,800,960 円（定期券交付）										
中学生	109人	11,673,860 円（定期券交付）										
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省のへき地児童生徒援助費等補助金が学校の統合後5年間を限度に約2分の1交付されるが、補助期間終了後は全額市費負担となることから、その財源対策が課題となっている。 ・市が定期券を一括購入しているため、定期券が金券であるとの意識が薄く、定期券の紛失及び乗車時の不携帯が多発しており、その解決が課題となっている。 											
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育諸学校の再編統合による通学手段の確保は市の責務であり、長期的な事業継続が必要なものであるため、補助期間の延長等について関係機関を通じ国に要望する。 ・定期券の紛失及び乗車時の不携帯については、学校を通じ児童生徒及び保護者に対し継続した周知と指導を行う。 											
教育委員会の自己評価												
事業達成度	事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育諸学校の再編統合による通学手段の確保は市の責務であり、長期的な事業継続が必要なため、今後ともより合理的かつ利便性の高い運用を行う必要がある。 ・通学費援助の方法については、必要額を現金給付する方法と、現行の現物給付の方法があり、どちらも一長一短があるが、通学の統一性と児童生徒の確実な通学を保障するため現行制度を改善しながら継続する。 										
B	B											

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	1 安全安心な通学体制の整備	担当課	教育課：(学校教育)・社会教育・社会体育																		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)																	
事業実績及び効果	<p>(5) 児童生徒通学安全対策（バス待合所設置）</p> <p>○事業実績 通学方法説明会等における保護者からの要望を受け、小・中学校の統合によりバス通学する児童生徒の悪天候時における安全・安心の確保のため、必要なバス停に待合所を設置した。</p> <table border="1" data-bbox="464 658 1401 949"> <thead> <tr> <th>設置年度</th> <th>設置数</th> <th>設置場所</th> <th>設置費用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成21年度</td> <td>1</td> <td>中学校前</td> <td>470,400 円</td> </tr> <tr> <td>平成22年度</td> <td>16</td> <td>本町6丁目、鹿ノ谷1丁目、鹿ノ谷駅前、ときわ入口、二岐橋、天理教、岳見住宅、遠幌、楓3区、紅楓橋、博愛舎前、真谷地橋、二部会館、沼ノ沢552、沼ノ沢604</td> <td>7,664,950 円</td> </tr> <tr> <td>平成23年度</td> <td>1</td> <td>夕張インター入口</td> <td>1,060,500 円</td> </tr> </tbody> </table> <p>○効果 ・通学時の雨風や冬期間における降雪から児童生徒を守ることができ、安全・安心な通学体制確保の一助となっている。 ・待合所は児童生徒のみならず高齢者等の利用も多く、バスを利用する市民全体の安全・安心の確保に役立っている。</p>	設置年度	設置数	設置場所	設置費用	平成21年度	1	中学校前	470,400 円	平成22年度	16	本町6丁目、鹿ノ谷1丁目、鹿ノ谷駅前、ときわ入口、二岐橋、天理教、岳見住宅、遠幌、楓3区、紅楓橋、博愛舎前、真谷地橋、二部会館、沼ノ沢552、沼ノ沢604	7,664,950 円	平成23年度	1	夕張インター入口	1,060,500 円	1,103	1,061	42	
設置年度	設置数	設置場所	設置費用																		
平成21年度	1	中学校前	470,400 円																		
平成22年度	16	本町6丁目、鹿ノ谷1丁目、鹿ノ谷駅前、ときわ入口、二岐橋、天理教、岳見住宅、遠幌、楓3区、紅楓橋、博愛舎前、真谷地橋、二部会館、沼ノ沢552、沼ノ沢604	7,664,950 円																		
平成23年度	1	夕張インター入口	1,060,500 円																		
課 題	<p>・冬期間の除雪管理などを利用者、保護者、地域などをお願いしているが、設置箇所により管理状況に格差が生じており、特に人家に遠い待合所の管理が課題となっている。</p> <p>・立地条件によりバス停と離れた場所にも設置せざる得なかったが、そうした場所の利用が低調である。（博愛舎前、鹿の谷駅前、遠幌）</p>																				
今後の方向性	<p>・設置にあたっては、将来的な利用者数の推移、土地環境、土地所有者などを考慮して進めてきたが、23年度までに物理的に可能な場所の設置は完了した。</p> <p>・既存待合所の管理については、受益者負担の原則により利用者等の積極的な参加について啓発を行うと共に、企業等のボランティアについても引き続き依頼し、良好な環境維持に努める。</p>																				
教育委員会の自己評価																					
事業達成度	事業効果																				
B	B	<p>・平成23年度末までに、ほぼ設置可能個所の施工を終え、悪天候時の児童生徒の安全・安心な通学のための一助となっている。</p> <p>・待合所の維持管理については受益者負担の原則により、適正な管理を行う必要があるが、一部の待合所については冬期間の除雪が不十分で、また人為的な施設の汚損などが見られることから、良好な施設環境の維持に向け一層の啓発活動を要する。</p>																			

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	1 安全安心な通学体制の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育																				
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)																				
	(6) 児童見守りサービス	1,290	1,260	30																				
事業実績及び効果	<p>○事業実績</p> <p>小・中学校の再編統合により、バス通学する児童生徒の安全・安心のため、総務省の地域ICT利活用広域連携事業を活用し、ゆうばり小学校に児童見守りシステムを導入し、登下校情報サービスを実施した。また、小・中学生を対象に熊の目撃情報や不審者情報などを保護者の携帯電話等にメールで知らせる一斉同報サービスを合わせて実施した。</p> <p>平成23年度利用実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th colspan="3">対象児童・生徒</th> <th rowspan="2">利用率</th> </tr> <tr> <th>小学生</th> <th>中学生</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>登下校情報確認サービス</td> <td>188名</td> <td>141名</td> <td>—</td> <td>75.0%</td> </tr> <tr> <td>一斉同報サービス</td> <td>454名</td> <td>154名</td> <td>17名</td> <td>37.7%</td> </tr> </tbody> </table>						項 目	対象児童・生徒			利用率	小学生	中学生		登下校情報確認サービス	188名	141名	—	75.0%	一斉同報サービス	454名	154名	17名	37.7%
	項 目	対象児童・生徒			利用率																			
小学生		中学生																						
登下校情報確認サービス	188名	141名	—	75.0%																				
一斉同報サービス	454名	154名	17名	37.7%																				
	<p>○効果</p> <p>登下校情報確認サービスについては、児童の登下校情報が保護者の携帯電話に送信されることから、保護者の安心感と利便性を高めることができる。</p> <p>一斉同報サービスについても、熊の目撃情報などを速やかに情報発信することにより、保護者のバス停までの出迎え等安全の向上に寄与している。【H23発信件数 20件】</p>																							
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・システムの年間維持経費に約1,200千円程度を要するため、ランニングコストに係る財源確保の検討が必要である。 ・サービス利用者は、登下校情報確認サービスで対象児童の約75%と比較的高いが、一斉同報サービスでは対象児童生徒の約38%に留まっているため、利用者の拡大が課題となっている。 ・登下校情報サービスを利用する児童の中には、登下校時においてカード読み取を行わないなど、利用が徹底されていない事例が見られる。 																							
今後の方向性	<p>バス通学を行う児童以外の保護者からも、登下校情報確認サービスを希望する者がいることから、今後開催する保護者を対象にした通学方法説明会においてサービスを希望する意向調査を行う必要がある。</p>																							
教育委員会の自己評価																								
事業達成度	事業効果	<p>児童見守りサービスは、安全・安心な通学体制の確保に役立つものであり、今後も利用者の拡大に向けた保護者周知が必要である。また、一斉同報サービスについては、利用が熊目撃情報など利用が限定されているため、今後幅広い情報発信のツールとして活用するための検討が必要である。</p>																						
B	B																							

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表 (総括表)

事務事業名	2 地域全体で学校を支える体制の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育
目的及び概要	新しい学校づくりを見据え、地域の教育力を活性化するため、夕張市全体で学校を支援する活動と地域に開かれた学校づくりを進める。			
平成23年度の主な事務事業名及び決算額	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)
	(1) 学校支援地域本部事業	691	584	107
	(2) 夕張市小中学校サポート会議	0	0	0
事業実績及び効果	別紙(細目)(1)～(2)に記載			
課題	別紙(細目)(1)～(2)に記載			
今後の方向性	<p>学校支援地域本部事業については、小・中1校体制のもと、市全体で学校を支える体制を確保するため、継続した事業展開が必要であり、特に児童生徒の安全安心対策として通学の見守り活動と、学力向上のための放課後学習会活動の充実を図る必要がある。</p> <p>夕張市小中学校サポート会議については、学校が地域住民の考えを把握し、学校運営に反映させるとともに、地域の協力を得て学校を運営するため立ち上げたが、この機能を十分に活用し、地域に開かれた学校づくりを進める。また、教育活動の成果を診断・評価する学校評価をもとに、その内容を保護者と地域に公表し、ご意見を頂く中で特色ある学校づくりに取り組む。</p>			
教育委員会の自己評価				
事業達成度	事業効果	<p>平成23年度から小・中学校区が市内全域となり、全市的な支援活動を行うための夕張市学校支援地域協議会による学校支援活動を行っている。本の読み聞かせ、放課後学習会の実施、清掃活動、児童生徒の通学時の交通安全指導、バス停での見守り活動を、多くの市民ボランティアの協力で行っており大きな成果をあげている。今後は継続したボランティアの人材の確保と、質の向上が課題となる。</p> <p>平成23年9月に立ち上げた夕張市小中学校サポート会議については、新しい学校づくりに一定の効果を果たしているが、今後この機能を更に充実させ、地域に開かれた夕張ならではの学校づくりを進めることが必要である。</p>		
B	A			
評価委員会の評価判定及び意見				
判定	<p>・本市の学校支援ボランティア活動は他の地域に見られない素晴らしいものであるが、市民の高齢化が進む中で、今後ボランティアの人材の確保と質の向上が課題であることから、将来的な支援体制の維持に向けた検討が必要である。</p>			
B	<p>・現在各地で問題となっている「いじめ」の早期発見等について、見守り隊員等や保護者の方が子どもの様子がおかしいと思った時に、学校や教育委員会以外にも、気軽に相談できる場所が必要である。</p>			

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	2 地域全体で学校を支える体制の充実		担当課	教育課 学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目			予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)
	(1) 学校支援地域本部事業			691	584	107
事業実績及び効果	<p>平成22年度に中学校が1校に統合したのに続き、平成23年度には小学校も1校になったことから、本事業は全市にまたがる支援活動を行うための活動を展開している。また、平成23年度から市内全児童生徒の約65%がバス通学になったことから、登下校時の安全指導、バス停での見守り体制を充実させた。</p> <p>さらに本の読み聞かせの回数を増やすなど、学習支援にも力を入れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本の読み聞かせ 71回 ・学校行事への参加 5回 ・清掃活動（草刈） 1回 ・ボランティア学習会の実施 1回 ・登下校時の安全指導 208回（学校支援ボランティア「見守り隊」 112名） 					
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・市教委と市民ボランティアとの調整役として、コーディネーターの役割が非常に大きいですが、今のコーディネーターが辞めた場合の代替りの人材がない状況である。 ・各バス停に配置されている「見守り隊員」が、各路線によって人数・参加頻度がまちまちである。 ・放課後学習会が実施できていない。 					
今後の方向性	<p>小・中1校体制のもと、地域全体で学校を支える体制を確保するため、継続した事業展開が必要であり、特に児童生徒の安全安心対策として通学の見守り活動の充実を図る必要がある。</p> <p>また、学力向上のための放課後学習会活動の再開が望まれる。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果					
B	A	<p>平成22年度の小学校に続き平成23年度から小学校の校区が市内全域になったことから、全市的な支援活動としての意味合いが、より強いものとなった。</p> <p>平成23年度からは、全児童生徒の約65%がバス通学を開始することになったことから、登下校時の安全指導・バス停での見守り活動が今まで以上に重要なものとなり、ボランティア人材の存在も、より大きなものとなった。</p> <p>本の読み聞かせ、学校行事への参加、清掃活動等は、非常に有意義なものであり、今後も力を入れていきたい。</p>				

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	2 地域全体で学校を支える体制の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)
	(2) 夕張市小中学校サポート会議			0
事業実績及び効果	<p>学校が地域住民の考えを把握し、学校運営に反映させるとともに、地域の協力を得て学校を運営することを目的に、平成23年9月、地域住民の代表で構成する「夕張市小中学校サポート会議」を立ち上げた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に開かれた学校づくりを進める機能。 ・教育活動の成果を診断・評価する学校評価を行う機能 ・学校評価の内容を保護者と地域に公表する機能。 <p>・委員数 16名（内学校評価委員6名）</p> <p>・平成23年度会議開催数 2回（9月、2月）</p>			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後地域的、年齢的にバランスのとれた委員の安定的な確保と会議機能の充実が課題となる。 			
今後の方向性	<p>地域と学校のパイプ役としてのサポート会議の機能を十分に活用し、地域総ぐるみで学校を盛り立て、夕張ならではの特色ある学校づくりに取り組む。</p>			
教育委員会の自己評価				
事業達成度	事業効果			
B	B	<p>平成23年9月に立ち上げた夕張市小中学校サポート会議については、小中学校統合により広域な本市が一つの学区となり、保護者のみならず地域住民の意向を的確に把握すること、また、学校に関する様々な情報を地域に発信し様々な意見を吸い上げる新しい学校づくりに一定の効果を果たしている。今後この機能を更に充実させ、地域に開かれた夕張ならではの学校づくりを進めることが必要である。</p>		

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
目的及び概要	小中学校1校体制のもと、地域との連携と協働による新しい学校づくりを進め、地域や学校、児童生徒の実態に応じた教育課題を明らかにし、主体的に学ぶことのできる教育内容の充実を図る取り組みを通じ、児童生徒の基礎学力の向上を目指す。					
平成23年度の主な事務事業名及び決算額	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(1) 生徒指導対策	400	400	0		
	(2) ことばの教室運営	152	149	3		
	(3) 障がい児教育促進協議会補助	220	220	0		
	(4) 総合的学習実践	308	308	0		
	(5) 中学校体育大会開催	1,021	1,021	0		
	(6) 特別支援学級運営	200	199	1		
	(7) 外国語指導充実（人件費を除く）	963	832	131		
	(8) 中1ギャップ問題未然防止	150	87	63		
	(9) 地域ICT利活用広域連携事業（デジタル教材活用）	45,139	21,239	23,900		
(10) 特別支援教育支援員配置（小学校）	707	652	55			
事業実績及び効果	別紙細目（1）～（10）に記載					
課題	別紙細目（1）～（10）に記載					
今後の方向性	夕張ならではの新しい学校づくりを進めるため、学校間連携を深めるとともに、基礎学力を確実に定着させる指導の充実と、活力ある教育活動を進めるため、既存事業の着実な実施と、地域ICT広域連携事業によるデジタル教材の活用、特別教育支援員の配置拡大など新規事業の充実を図る。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	地域と学校のパイプ役となる「夕張市小中学校サポート会議」を設置するとともに、異校種の効果的連携を図るため「夕張市学校連携会議」を設置した。またデジタル教材活用事業の拡充や特別教育支援員の配置を実施し、新しい学校づくりの基礎固めを行った。				
B	B	個性の異なる児童一人ひとりを大切にし、それぞれの個性を伸ばす取り組みは、教育内容を充実させる大きな力となっており、障がいを持つ子どもを大切に育てる教育、児童生徒が自発的かつ横断的に課題学習する総合学習の充実、小学校における外国語活動などの事業の充実を図った。				
評価委員会の評価判定及び意見						
判定	市の教育行政執行方針の下、1校化した小学校も多くの児童が学び合う良さを生かし特色ある新しい教育活動を推進している。また、学校支援地域本部事業などを活用した外部講師による授業、教育委員会が主催・後援する行事も教育効果を上げている。更にきめ細かい生徒指導を行いながら、基礎学力の定着、活用能力育成のため特別支援教育支援員の配置も行われた。中学校では、デジタル教材を活用した授業が学習効果を上げている。「ことばの教室」運営に関しては、指導者の増員により教育効果が高まり、保護者の厚い信頼が寄せられている。今後特別な支援を必要とする子どもの増加が見込まれるため、支援員、介助員の増員が必要である。また、異校種連携の強化等、教育効果向上のための具体的取り組みが求められる。					
B	<ul style="list-style-type: none"> 音楽発表会に夕張市音楽協会加盟の団体が参加したことは、文化振興の観点からも評価できる。 総合的学習の学習内容は広範囲にわたるため、指導する教師の研修の充実を図る必要がある。また、小学校と中学校の連携を強化し課題に偏りがなく、効率的・効果的な学習となるよう引き続き工夫する必要がある。 障がいを持つ児童生徒の自立と社会参加を促すため、宿泊学習や集合学習は有効である。また、担当教師だけでなく、学校全体での協力体制の確保が必要である。 中学生の中体連参加については、中学校1校化を踏まえ十分な財源の確保が必要である。 特別支援教育については、通級児童生徒に対する教師及び支援員の献身的な指導による効果が顕著であるが、今後は支援員・介助員の配置の充実が必要と考える。 「ことばの教室」の運営に関し、指導員の専門的知識などを向上させるため、十分な研修の保証するための予算措置について検討する必要がある。 災害時における避難訓練や防災教育はこれまで以上に必要性を増している。市の防災対策に関し、小学校が河川のそばにあるため、市全体のハザードマップ作成や対策が示されれば、それに沿った防災教育も可能となる。 					

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(1) 生徒指導対策		400	400	0	
事業実績及び効果	<p>1 開催事業名 平成23年度 夕張市音楽発表会 2 主催団体 夕張市教育委員会、夕張市教育研究協議会 3 共催団体 夕張市音楽協会</p> <p>音楽発表会は、本市の児童生徒の健全育成及び文化活動の一環として、日頃の教育活動の成果を広く市民に示す場であると共に、小・中・高等学校間さらに保護者をはじめ地域住民との実態交流の場として位置付けている。</p> <p>また、小・中・高等学校が一堂に会しての音楽の祭典としては、半世紀の歴史と伝統があり、地域住民も親しみやすいことから、夕張市音楽協会加盟団体との連携・協力の体制ができ、地域の文化の向上と振興を考えるうえで大きな成果が得られたと考える。特に、市内の児童生徒にとって、市内のそれぞれの文化団体の発表を直接目にする事は、学校教育活動に大きく反映されることを期待される。</p> <p>昨年度の課題であった、会場での観客者スペースと駐車場の確保は、かなり来場者数が多く困難であったが、発表会は問題なく進行できた。</p> <p>期 日 平成23年10月15日（土） 午前8時45分～午前12時00分 場 所 夕張中学校体育館 参加対象・小学校—ゆうばり小学校 児童数：285名 ・中学校—夕張中学校 生徒数：173名 ・高等学校—夕張高等学校吹奏楽部 生徒数：20名程度 ・夕張市音楽協会参加団体 5団体 補助対象：児童生徒の移動交通費及び楽器運搬費用等として40万円を補助している。</p>					
課 題	観客者スペースと駐車場の確保が困難だったことから、来年度は文化スポーツセンターでの実施を予定している。それに伴い、バスの運行計画や移動交通費・楽器運搬費等をしっかり計画し実行していくことが課題となる。					
今後の方向性	市内の児童生徒の健全育成及び学校教育、特に児童生徒の情操教育の一翼を担う行事として位置づけ、生涯学習に基づく文化活動として長く活動されている夕張市音楽協会との連携を図ることにより、市民参加（児童生徒から大人まで）の活動としてより一層の発展が期待される。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	市内児童生徒の健全育成及び情操教育の一翼を担う行事であり、夕張高校吹奏楽部や夕張市音楽協会との連携など、学校間連携の推進や文化振興事業としての側面も持つ事業である。本市の教育振興の観点からも、継続した事業展開が必要とえる。				
B	A					

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実		担当課	教育課(学校教育・社会教育・社会体育)		
事業項目	項 目			予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)
事業実績及び効果	(2) ことばの教室運営（人件費を除く）			152	149	3
課 題	<p>○通級児数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童19名（構音の誤り5名、言語発達の遅れ14名） ・幼児22名（構音の誤り2名、言語発達の遅れ11名、広汎性発達障がい・傾向4名、運動発達の遅れ2名、吃音3名） <p>○教育相談の実施</p> <p>保護者の悩みを随時間き取ることで、育児に対して前向きに取り組むように促すことができた。</p> <p>○保護者面談の実施（随時）</p> <p>家ではわからないこどもの様子を伝え、指導者と保護者での相互理解に繋がった。また、父親の面談も増えており、夫婦協力での子育てのきっかけに繋がった。</p> <p>○ケース会議の実施（教育長、アドバイザー、学級担任、保健師、家庭児童相談員等出席）</p> <p>学期初めに提出する指導経過報告書を通して、指導目標・指導経過・問題点・反省点・保護者への対応・今後の課題等について話し合い、各々の役割での連携強化に努めた。</p> <p>○専門発達相談事業、運動発達訓練、道立施設専門支援事業の実施。</p> <p>知的、発達、行動、学習面や集団活動、運動発達面で訓練を必要とする気になる児童・幼児の発達評価、診断、保護者の助言を行い、それをもとに園生活等を通して指導内容を検討することができた。</p> <p>○学校・幼保育園訪問（年2回）</p> <p>通級している子どもだけでなく、それ以外のこどもの検査・助言等も行った。</p> <p>○文集の作成と教室便り（年12回）の発行</p> <p>各関係機関の連携と地域への啓蒙を図る活動とすることができた。</p> <p>○母親教室の実施（アクリル系毛糸でたわし作り）</p> <p>気分転換の要素も多く含むが、母親同士の交流により普段話すことが出来ない子育ての悩みなどを共有することができた。また、OBの参加によって経験談を聞くことができることも効果的だった。</p> <p>○各行事（夏の体験学習・クリスマス会）の実施。</p> <p>個別指導が基本のことばの教室にあって、行事を行うことで年齢や学年を越えた相互の働きかけの機会をつくった。また、普段参加することができない通級者の父親も参加することによって親同士の横のつながりをさらに深めることができた。</p>					
今後の方向性	<p>○今年度同様、保護者の支援・子どもに必要な確かな指導・他機関との連携に努めていく。</p> <p>○保護者が主体的に活動・啓蒙し保護者同士・子ども同士のつながりを深め親睦を深めていくため、各行事の主催を親の会に移行していく。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果					
B	A	<p>夕張市ことばの教室は昭和56年に開設以来、ことばに障がいを持つ幼児・児童の療育・指導を行っており、平成6年からは母子通園センターの機能も併せ持つ施設として、肢体不自由・情緒障がい等の幼児に対する療育と情報提供等福祉分野での業務も行っている。市全体の子どもの数が減少する中、通級児の数は減少しておらず、本年度も幼児・児童41名が通級しており、本市の障がい児教育における役割は大きなものがある。また、保護者の子育てに対する悩みに対する教育相談や、幼稚園、保育園、関係専門機関との連携の要の役割も果たしているなど、その事業効果は高いものがある。</p>				

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(3) 障がい児教育促進協議会補助	220	220	0		
事業実績及び効果	<p>障がいを持つ児童の個々の状態に対応した柔軟な教育内容、指導方法等により児童生徒の能力を伸ばす必要がある。本事業は自立と社会参加を目指し、普段の学習では経験することのできない、集合学習や市外での宿泊学習を行うことにより、児童生徒の成長に大きな効果を果たしている。</p> <p>○集合学習（1回目）…7月11日（月） ○宿泊学習（小樽市）…9月8日（木）・9日（金） ○集合学習（2回目）…2月21日（火） 以上活動費執行額 220,000円</p>					
課題及び今後の方向性	<p>障がいを持つ児童・生徒に対する理解や協力を、より多くの周囲の人々に共有してもらうための工夫が必要であり、時には関係者以外の人々が協調し育成の手助けも行えるような仕組みづくりを進める必要がある。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>本事業は特別な支援を要する児童生徒の自立と社会参加の一助となるよう、日常普通の授業では経験できない宿泊学習や集合学習を行うための事業であり、児童生徒の発達と成長に大きな効果をもたらしている。</p>				
A	A					

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(5) 中学校体育大会開催	1,021	1,021	0		
事業実績及び効果	<p>学校教育活動として行われる中学校体育大会への、市内中学校生徒及び引率教諭等の派遣に要する旅費等、経費の一部を補助するための事業であり、本市の体育振興に大きな成果が得られたと考える。</p> <p>○南空知大会出場種目 野球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、スキー</p> <p>○全空知大会出場種目 バドミントン、柔道、バスケットボール、剣道、</p> <p>○全道大会出場種目 相撲</p> <p>○全国大会出場種目 相撲、スキー</p>					
課題及び今後の方向性	<p>各年度の大会の成績により、事業費に大きな差異が生じる。また、事業実施に係る財源が「こども基金」からの繰入れで賄われているため、将来的に財源が枯渇した場合の財源確保を含めた事業の在り方についての検討も必要。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果					
B	B	<p>生徒が教育活動の一環として行われる大会等に参加するための費用を補助するための事業であり、本市の体育振興のためにも必要性は高く、教育効果も高い事業である。</p>				

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(6) 特別支援学級運営	200	199	1		
事業実績及び効果	<p>夕張中学校における特別支援学級（肢体不自由学級）に通学している生徒の障害は、重度重複障がいであり、骨形成不全（背骨の湾曲による下半身麻痺）・気管切開（痰の吸引を行わなければ呼吸不全に陥る）・経鼻管栄養（鼻から栄養を点滴することにより主な栄養補給をおこなっている）・口蓋裂・難聴・その他等の障がいがあり、日常の学校生活をおくるために学校においても医療行為が必要なため、看護師資格をもった介護員が平成16年度より配置されている。</p> <p>介護員の主たる業務は、サクション・エンシュア・着替え・水分補給・体温管理であり、基本的に別室に待機しており、緊急時には携帯で連絡が取れる状態になっており、通常時には定期的な医療行為及び生活補助行為を行っている。</p> <p>現在、学校教職員の共通理解と介護員の医療行為により、順調に通学することができており、健康面も落ち着いている。</p> <p>平成24年度は中学校3年生となり、自立に向けてキャリア教育の一端としての修学旅行に参加して、同学年の生徒と同じメニューで学習を行うことができた。また、課題であった進路に関しても、関係機関と検討した結果、高等養護学校への進学が有力となっている。</p> <p>○介護員勤務時間・賃金 年間154時間 単価1,230/時間</p>					
課題及び今後の方向性	<p>中学校の特別支援学級（肢体不自由）に在籍する当該生徒の就学を保障するためには、医療行為を行える専門の看護職の配置が不可欠であるが、本事業による介護職員のサポートや、周囲の生徒の理解と協力により、特段の支障なく学校生活を送ることが出来ている。また、進路については進学という方向に定まってきてはいるが、引き続き情報収集し関係機関と慎重に検討していく必要がある。</p> <p>また、平成25年度新1年生に重度重複障害を持つ児童が入学する予定である。未だ、決定はしていないが、関係機関と検討・情報交換を行い、介護員のサポートの必要性や重要性を検討していく必要がある。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>本事業は医療行為等介護が必要な特別支援学級に在籍する児童生徒にとって不可欠なものであり、ケア・サポートを受ける児童生徒はもちろん、学校や保護者、周囲の生徒にとっても高い教育効果が認められる。</p>				
A	A					

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実		担当課	教育課(学校教育・社会教育・社会体育)		
事業項目	項 目			予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)
事業実績及び効果	(7) 外国語指導充実（人件費を除く）			963	832	131
課題及び今後の方向性	<p>学習指導要領の改訂を踏まえ、本市における外国語指導充実のため、外国青年招致事業（JETプログラム）に参加。平成21年度から委嘱している外国語指導助手（ALT）を平成23年度においても引き続き委嘱する予定であったが、ALT本人の希望により再任用を取り消し、新たに別のALTを委嘱することとした。</p> <p>ALTの円滑な業務遂行を保障するため、日本在住に係る共済費、需要品等、外国語教育・国際理解教育の充実を図るための研修会参加の旅費、JETプログラム参加における負担金等を負担した。研修旅費に関しては、新規来日者研修に参加した。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果					
B	A	<p>本市の外国語指導助手（ALT）については、財政破たんの影響により平成19年度から雇用を休止し、空知教育局の支援によるALTの派遣により対応していたが、学習指導要領の改定により、小学校における国際理解教育が義務化され、平成21年度から自前のALTの採用を復活した。小中学校における外国語教育と小学校における国際理解教育を円滑に進め、児童生徒の教育活動を保障するためには、安定したALTの雇用が不可欠なものである。</p>				

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名		3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項目			予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)	
		(8) 中1ギャップ問題未然防止			150	87	63
事業実績及び効果	<p>○学校生活アンケートの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活に関するアンケート（アセスアンケート）の年3回の実施により、学習や対人関係などの学校環境や家族関係などの学校外環境の多面的な適応感を把握・分析し、その結果を学級経営や教育相談に活用したことで、児童生徒に対するきめ細やかな指導の充実を図ることができた。 <p>○学校職員研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道医療大学の富家准教授（臨床心理士）を招聘し、子ども達のコミュニケーションスキルの育成に視点をあてた講話により、教師全体が共通理解のもと「中1ギャップ」解消に係る教師個々の指導力の向上が図られた。 <p>○出前授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校と中学校の接続が円滑に行われるよう、中学校の教員が小学校に出向き、英語や算数の出前授業を行い、新しく履修する教科の不安解消と、児童と教師の人間関係づくりを行うことができた。 <p>○中学校体験入学</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度に中学校に入学するゆうばり小学校の児童を招き、中学校教員から学校生活や施設についての説明を受けるとともに、スクールカウンセラー（岩瀬貴嗣氏）による集団カウンセリングの実施により、中学校入学時の不安やストレスを取り除き、中学校への期待や希望を抱く機会とすることができた。 <p>○学校職員・PTA研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーの蝦名美穂氏を招聘し、教員と保護者が子ども達の人間関係づくり能力等の状況について共通理解に立ち、学校と家庭とが連携して児童のコミュニケーションスキルなどを育成するための機会を提供できた。 						
課題	<ul style="list-style-type: none"> 小・中学校の1校化により、9カ年を見通して児童・生徒を育てていくという視点から、小・中学校の教員が常に情報交換し、中学校に入学する前から複数の目で子供たちを見つめる事ができる環境を整える必要がある。 アセスを活用したアンケートは児童・生徒の学校適応感を総合的に判断するための有効な手段であり、今後は対象を高学年に限定せず、中・低学年においても実施できるよう、アンケートの内容に工夫を加える必要がある。 						
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケート（アセス）の内容の工夫による中・低学年への展開 出前授業は、中学校の授業をイメージできるようにするため、各教科等における児童の実態を事前に把握する必要がある。 児童・生徒のコミュニケーションスキルを向上するためのプランを作成するなど計画的な取組とする必要がある。 						
教育委員会の自己評価							
事業達成度	事業効果	<p>本事業は道の委託事業であり、小学校から中学校の接続の問題（中1ギャップ）に対応するための対策を実施するものである。また本市においては、小・中学校の統合により、これまであまり交流のなかった児童生徒が、一つの学校に集まっていることから、子ども達がスムーズに打ち解け、不安なく新しい学校生活を送ることができるよう、様々な事業を実施しており、その効果は非常に高く道の委託事業終了後においても各学校の創意工夫により今後も継続して実施する必要がある。</p>					
B	B						

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名		3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項目			予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)	
		(9) 地域 ICT 利活用広域連携事業（デジタル教材活用）			45,139	21,239	23,900
事業実績及び効果		<p>○事業概要 千歳科学技術大学が開発し、千歳市内の小中学校で活用実績のあるデジタル教材・eラーニングシステムをベースに、夕張市・千歳市の各学校において、それぞれの興味、レベルにあったデジタル教材を作成、改良することで、一層質の高いeラーニング環境を両市において効率的に構築するするとともに、千歳市で実践しているデジタル教材・eラーニングを使用した授業のノウハウを、夕張市の中学校で実践することにより、夕張市における生徒の学力の向上を図ることを目的に実施</p> <p>○事業効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT を活用した授業実践により生徒の学習意欲は相対的に向上しており、計画的な自学自習を行っているかを生徒にアンケートしたところ、「よくできている」「大体よい」と回答した生徒は、平成22年度の26%に対し、今年度38%に増加しており、ICT を活用した授業が効果的であることが伺える。 ・ ICT を活用した授業の実施などによる分かりやすい授業の工夫に努めているかを保護者にアンケートしたところ、「十分にそう思う」、「そう思う」と回答した保護者は、平成22年度の53%に対し、今年度61%に増加しており、ICT を活用した授業に関し保護者の理解も得られている。 ・ ICT 支援員の活用や ICT に関する校内研修等の実施により、ICT を活用した授業を実践可能な教員は着実に増加しており、ICT に関する教員の能力も向上している。 					
課題		<p>今年度は本市並びに千歳市、千歳科学技術大学の三者連携により夕張市及び千歳市における ICT 教育環境の向上を図ったところであるが、横方向への展開に加え、両地域における縦方向（幼稚園・小学校・高等学校など）への展開の必要性についても検討する必要があると考えている。</p>					
今後の方向性		<p>本事業終了後においても千歳科学技術大学のサポートにより継続的に事業を展開するとともに、当事業に関心のある近隣自治体との協働（横方向への展開）や、現在特定の教科に限られているデジタル教材の複数教科への拡大に加え、両市における縦方向（幼稚園・小学校・高等学校など）への展開も視野に入れ事業の拡大を模索する。</p>					
教育委員会の自己評価							
事業達成度	事業効果	<p>ICT 機器を活用した授業の実施により生徒の学習に対する興味・関心は着実に向上しており、本事業の継続により夕張中学校の生徒の学力の底上げが十分期待でき、保護者アンケートの結果から保護者の理解も得られている。</p>					
B	B	<p>また、ICT 支援員の活用や校内研修の充実により、ICT を活用した授業を実践可能な教員は着実に増えており、ICT に関する教員の能力も向上している。</p>					

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名		3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項目		予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(10) 特別支援教育支援員配置（小学校）		707	652	55		
事業実績及び効果	<p>【背景・概要】</p> <p>小中学校1校化により、統合校の児童生徒数が大幅に増加し、普通学級においても特別な支援を要する児童（高機能自閉や発達障がい等）が増加している。これらの児童・生徒に対する学習面などの支援体制の確保と、クラス全体の学力の底上げを図ることが課題となった。</p> <p>このため小学校に先行して特別支援教育支援員1名を配置し、特別な支援を要する児童への指導に極めて高い教育的効果をあげている。また、円滑な学級運営と学級全体の基礎学力の向上にも貢献している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み取りが困難な児童に対する黒板の読み上げ ・書くことが困難な児童に対するテストなどの代筆 ・聞くことが困難な児童に対し担任教諭の話を繰り返し聞かせる ・対象児童の安全の確認 ・周囲の児童への障がい理解の促進 <p>○普通学級に在籍し特別な支援を要する児童・生徒の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 5.8% ・中学校 8.9% <p>【予算】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賃金 $a800円 \times 4h \times 10月 \times 1名 = 704,000円$ ・共済費 $704,000円 \times 3.05/1000 = 2,148円$ 						
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校においても、小学校と同様普通学級において特別な支援を要する生徒が多数在籍する。 ・支援員は教員免許を持つ者が望ましいが、市内における人材確保が難しい課題がある。 						
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校に対する特別支援教育支援員の配置にむけ、平成24年度当初予算に係る計画変更と予算計上を行ったが、今後、配置時間の拡大に向けた検討が必要。 ・小学校においては継続的かつ安定的に支援員を雇用し、各学級における障がいを持つ児童の状況を踏まえた効果的な配置を行う。 ・文科省においても支援員を計画的に配置できるよう、平成19年度から地方財政措置を行っており、平成24年度からは更に財政措置が拡充されることから支援員の配置の拡充が必要である。 						
教育委員会の自己評価							
事業達成度	事業効果	<p>小・中学校の普通学級に在籍する障がいを持つ（発達障害等）子ども達を適切に支援するためには、教師のマンパワーだけでは支援が困難であり、特に本市は、小中学校の1校化による児童生徒数の増加もあって、特別支援教育支援員の配置は教育上不可欠となっている。平成23年度に小学校に配置した支援員については、LDの児童に対する学習支援やADHDの児童に対する安全確保などの学習活動上のサポートと児童の基礎学力の向上に大きな成果をあげている。</p>					
B	A						

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

事務事業名	4 学校施設設備の整備	担当課	教育課(学校教育)・社会教育・社会体育	
目的及び概要	児童・生徒が安全で快適な学校生活を送れるよう、児童・生徒の安全性の確保、施設の耐久性と教育環境の質的向上を目的に必要な事業を行う。また、教材教具等については児童生徒の学習活動に支障がないよう計画的に整備を行う。			
平成23年度の 主な事務事業名 及び決算額	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)
	(1) 小・中学校校舎維持補修	2,950	2,896	54
	(2) 小・中学校教材教具整備	4,203	3,775	428
	(3) 小・中学校管理業務(用務員賃金)	5,870	5,798	72
	(4) 夕張中学校体育館落雪対策	2,256	2,205	51
事業実績及び効果	別紙細目(1)～(4)に記載			
課 題	別紙細目(1)～(4)に記載			
今後の方向性	小中学校統合による校舎等の大規模改造工事に伴い、必要な設備・備品等も整備したことから、当面施設の大規模改修は要しなが、校舎等の適正な維持管理と、各学校の教育方針に沿った教材等の整備を計画的に進め、教育環境の維持向上に努める。また、学校施設設備のき損・汚損防止については、学校と連携し適切な生徒指導が行われるよう努めると共に、学校支援ボランティアによる校舎周辺の環境整備についても、学校支援地域協議会と連携して進める。中学校の落雪対策については、来年の冬を迎える前に防護柵の設置を完了させる。			
教育委員会の自己評価				
事業達成度	事業効果	校舎等の大規模改造工事により、校舎の耐震化、バリアフリー化、耐用年数の向上、教育環境や福祉環境の整備が行われた。また、必要な設備・備品の整備も行い、校舎や体育館などの建物本体と、主な設備備品については当面大規模な改修や更新を要しない。また、教材教具については小・中学校の教育方針に沿った整備を行っている。校舎の維持管理を担う用務員は、常勤2名体制とし児童・生徒数の増加に対応した体制を確保し効果をあげている。中学校の落雪対策については調査設計を終え、平成24年度に落雪防止柵を設置する目処をつけた。		
B	B			
評価委員会の評価判定及び意見				
判定	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級運営に関連し、重度の肢体不自由児が入学し交流学級で授業を受ける場合、2・3階の技能教科の教室に移動する必要があるが、この場合教職員の負担軽減と、当該児童の安全面を考慮した対応が必要である。 			
B	<ul style="list-style-type: none"> ・安全安心な通学体制の整備に関連し、中学校前バス停から中学校に至る通学路は歩道が整備されておらず、安全上課題があることから、通学路の整備について関係機関等に要請する必要がある。 			

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	4 学校施設設備の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(1) 小・中学校校舎維持補修	2,950	2,896	54		
事業実績及び効果	<p>小学校はH23年4月に再編統合し、1校としたところであり、前年度に大規模改修をしたためゆえに小学校分の維持補修については必要最小限にとどまっている。 なお、小学校閉校のための経費として、水道設備の水落とし業務を実施したものである。</p> <p>また、中学校についてもH22年4月に現、夕張中学校へと再編し、大規模改修をしているところであるが、消防設備点検で指摘のあった消防設備の更新と未改修部分であった浄化槽の設備が故障したことにより緊急的に事業を実施したところである。</p> <p>小学校費 予算額 1,513千円 決算額 1,472千円 不要額 41千円 中学校費 予算額 1,437千円 決算額 1,425千円 不要額 12千円</p>					
課 題	<p>小・中学校とも統合に向けた大規模改修を行ったが、未改修部分の劣化が徐々に設備の故障につながり、これが表面化してきた。 このため、未改修部分の把握と、そのための予算措置を要する。</p>					
今後の方向性	<p>児童生徒の安全・安心な学校生活を保障することはもちろんのこと、災害時の緊急避難施設にも指定されていることや、将来の維持補修費の抑制を図るためにも計画的な補修を行う必要がある。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果					
B	B	<p>小中学校とも、学校統合に伴う校舎等の大規模改修工事を行っているため、校舎等の維持補修は限定的なものとなっているが、両校とも未改修部分の経年劣化などによる補修箇所は増加することが見込まれる。今後は校舎廊下のワックス掛けなどを計画的に行うなど、施設の長寿命化を図るための予算措置を検討する必要がある。</p>				

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	4 学校施設設備の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(2) 小・中学校教材教具整備	4,203	3,775	428		
事業実績及び効果	<p>小・中学校ともに、児童生徒の学習意欲を引き出すために、各学校の教育方針に沿った教材の整備を行った。 中学校においては新学習指導要領により武道が必修になったことからそのための柔道畳と畳運搬車を整備したところである。</p> <p>小学校費 予算額 1,274千円 決算額 1,160千円 不要額 114千円 中学校費 予算額 2,929千円 決算額 2,615千円 不要額 314千円</p>					
課題	<p>・児童生徒数の増加により教材の耐用期間が短くなることや、故障の発生も多くなることも考えられることから、各学校における教材教具の状況調査と、必要な更新を要する。</p>					
今後の方向性	<p>限られた予算の中での整備となることから、学校としての整備方針を踏まえたうえで、効果的かつ、耐用期間に配慮した教材の整備が必要となる。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>小・中学校ともに、新学習指導要領に基づくもの、児童生徒の学習意欲を引き出すために、各学校の教育方針に沿った形で教材の整備を行い、一定の成果をあげたものとする。</p>				
B	B					

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	4 学校施設設備の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(3) 小・中学校管理業務（用務員賃金）	5,870	5,798	72		
事業実績及び効果	<p>中学校が統合された実績から、小学校でも統合による作業量の増が予想されたことから、8時間のフルタイム2名体制（11月雇用）とすることで、校舎内外の環境整備が図られている。</p> <p>小学校（1校 常勤2名） 予算額 2,901千円 決算額 2,866千円 不要額 35千円 中学校（1校 常勤2名） 予算額 2,969千円 決算額 2,932千円 不要額 37千円</p>					
課題	<p>小中学校とも生徒数の増加により、学校施設のき損、汚損が増加し用務員の維持管理作業が大幅に増えている。</p> <p>また、地下タンクの危険物取扱資格を持つ用務員が小学校にしかおらず、中学校と兼務の形で対応している状況にある。</p>					
今後の方向性	<p>現在は、統合直後ということもあり重大な学校施設の不備はないが、経年劣化等により、維持管理作業の増加が見込まれるため、現在の雇用体制を維持し、合理的な作業実施により良好な教育環境の整備を図る。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>小中学校とも、統合による作業量の増加があり、雇用形態をフルタイム2名の体制となっているが、今冬は例年でない積雪であったため、除雪作業にかなりの時間を要した、積雪により重大な事故が起こることもあるので、児童生徒の安心・安全のためにも引き続きこの体制を維持する必要がある。</p>				
B	B					

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	4 学校施設設備の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(4) 夕張中学校体育館落雪対策（落雪防護柵設置に向けた調査設計	2,256	2,205	51		
事業実績及び効果	<p>【背景・概要】</p> <p>夕張中学校体育館北側に隣接した市道が建設されて以降、20年以上にわたり体育館屋根の積雪が当該道路南側の歩道部分に落雪し、歩行者の安全確保のため冬期間この歩道を閉鎖してきた経過がある。</p> <p>中学校統合により、平成21年度校舎の大規模改造を実施し、体育館も屋根板金の葺替を行ったが、これにより落雪の頻度と落下速度の増加も加わり落雪が当該道路の車道部分まで至る事態となった。</p> <p>こうした中で、歩行者等の安全確保のための恒久的対策として、体育館と当該道路間に落雪防護柵の設置を検討し、工事に向けた測量・設計を行い概算工事費を算出した。</p> <p>・落雪防護柵設置工事費 6,830 千円</p> <p>【効果】</p> <p>落雪防護柵を設置するまでの緊急措置として、道路南側に仮歩道を設置し、冬期間における歩行者の当面の安全を確保したが、防護柵の完成により、児童生徒を含め一般住民の恒久的な安全確保が図られる。</p>					
課題						
今後の方向性	落雪防護柵の設計が完了し、工事費についてもH24年予算に計上したことから、平成24年の積雪期までに設置を完了し、車両や歩行者の安全を確保する。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	当該道路は夕張中学校の通学路でもあり、生徒と地域住民の安全・安心を確保するため必要な事業であることから、落雪防護柵設置についても遅滞なく進める必要がある。				
A	A					

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

事務事業名	5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
目的及び概要	児童生徒の発達段階に即した献立の充実と、食に対する指導と実践を通して、食育の充実を図るとともに、関係機関と連携をし食中毒など給食事故を防止し、子ども達に喜ばれる学校給食の提供に努める。また、児童生徒の健康管理については、学校保健法の規定に基づき必要な検診等を行うと共に、関係機関と緊密に連携し、インフルエンザなど感染症の予防に努める。					
	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(1) 小学校給食運営	6,090	5,622	468		
	(2) 中学校給食運営	3,237	3,126	111		
	(3) 中学校給食業務（調理員賃金）	10,743	10,741	2		
	(4) 児童・生徒の健康管理	578	415	163		
事業実績及び効果	別紙細目（1）～（4）に記載					
課 題	別紙細目（1）～（4）に記載					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校統合により平成23年度から給食調理場も1個所に再編されたことから、引き続き専属の栄養教諭による食育の充実を図る。 ・安全で安心な給食を目指し、共同調理場内に衛生管理、献立作成、物資調達に関わる委員会を設置し、外部の意見を給食運営に取り入れるよう努める。 ・安全で安心な給食を供給するため、衛生管理マニュアルの徹底した実践と、調理員個々の意識改革を行い食中毒などの防止に努める。 ・インフルエンザ等の感染症の予防については、医師会、保健所、各保育所等との連携を密に行い、感染予防と感染拡大の防止に努める。 					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果					
B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の学校給食は、自校方式により運営され、安全・安心で美味しい給食の提供に努めている。小学校の統合により調理場も1個所に再編されたが、適正数の調理員を配置し、衛生管理の徹底による信頼される給食の提供と、一層の合理的な調理場運営を図る必要がある。 ・小中学校の1校化により、インフルエンザ等の感染症が広がりやすい環境にあるため、来校者の消毒の徹底や、児童生徒に対する「うがい」、「手洗い」等指導を行っているが、更に指導の徹底を図る必要がある。 				
評価委員会の評価判定及び意見						
判定	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の給食運営に関し、栄養教諭及び調理員の衛生管理の徹底と実践により、食中毒等の事故が発生していないことは評価される。 					
B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康管理について、感染症に対する取り組みについては、学校や関係機関の指導・協力を留まらず、家庭における教育や協力も大切であることから、PTAなどを通じ感染症予防の取組を行う必要がある。 					

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実	担当課	教育課(学校教育)・社会教育・社会体育	
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)
	(1) 小学校給食運営	6,090	5,622	468
事業実績及び効果	<p>○食に対する指導について 低学年・中学年・高学年ごとに指導内容を設定し、年齢に沿った指導を行うことで、食に対する興味、関心を高めることができた。また、給食だよりを月1回発行することで、保護者に対しても食育に対する意識を高めることができた。</p> <p>○献立作成について 下記、留意点と児童へのアンケートなどを含めて栄養教諭が献立を作成し、子ども達に喜ばれる給食提供に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養所要量，食品構成を満たすようにする。 ・児童の実態（成長期，味覚の形成期，心身の健康等）に配慮する。 ・年間献立作成計画に基づいて作成する。 ・献立：毎日変化をつけ，子どもの嗜好を考慮し，組み合わせや調理方法を工夫する。 ・新しい献立を取り入れるようにする。 ・出来上がり量や彩りを考慮する。 ・行事食を取り入れ，食文化の継承に役立てる。 ・食材：旬の食材を取り入れ季節感を出す。 ・地場産品を積極的に取り入れる。 ・冷凍加工食品を使用する場合は，品質，栄養価，衛生面から選択し，使用頻度に注意する。 			
課題	<p>○食器（特に重い大カップ及び仕切り皿）の破損が多く、乱暴に扱っていると割れるということの認識不足と小中学校で使用している食器が同じということもあり、小学校での破損が多くなっている。</p> <p>○衛生管理委員会・献立作成委員会・物資選定委員会の設置</p>			
今後の方向性	<p>○24年度の栄養教諭の小学校への派遣回数は13回を予定しており、各クラスごとに栄養教諭が給食時間に訪れ適切な食の指導を行う。</p> <p>○共同調理場で献立作成委員会を設置し、PTA等外部からの意見も取り入れることにより、充実した献立を提供する。</p> <p>○給食費の未納に関し、生活保護受給者の未納が多くを占めており、催促を行っても納付されない場合は特別納付、児童手当からの天引きなどの対処が必要。</p>			
教育委員会の自己評価				
事業達成度	事業効果	<p>夕張中学校内の調理場からゆうばり小学校への運搬委託料のみを計上しているものであり、必要最小限の予算で安全・安心な給食を提供している。また、学校における食育の生きた教材となる学校給食の充実を図るため、可能な限り地場産物の活用や米飯給食の充実にも努めている。昨年度からの課題であるが、献立作成にあたり外部からの意見を取り入れるなど、信頼される給食の供給と、より一層の合理的な給食運営を進める必要がある。</p>		
B	B			

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実		担当課	教育課(学校教育)・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目			予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)
事業実績及び効果	<p>(2) 中学校給食運営</p> <p>○給食事故に関して 食中毒に関しては食中毒警報発令があり次第、関係機関への周知の徹底等により防止できたが、平成23年4月6日(火)に異物混入(虫)の事故発生。発見が盛り付け前で、該当食品は配給停止としたため、児童・生徒への直接的な影響はなし。</p> <p>○献立作成について 下記、留意点に気をつけ、生徒に対するアンケートなどを含めて栄養教諭が献立を作成し、子ども達に喜ばれる給食提供に努めた。 ・栄養所要量、食品構成を満たすようにする。 ・生徒の実態(成長期、味覚の形成期、心身の健康等)に配慮する。 ・年間献立作成計画に基づいて作成する。 ・献立：毎日変化をつけ、子どもの嗜好を考慮し、組み合わせや調理方法を工夫する。 ・新しい献立を取り入れるようにする。 ・出来上がり量や彩りを考慮する。 ・行事食を取り入れ、食文化の継承に役立てる。 ・食材：旬の食材を取り入れ季節感を出す。 ・地場産品を積極的に取り入れる。 ・冷凍加工食品を使用する場合は、品質、栄養価、衛生面から選択し、使用頻度に注意する。</p> <p>○食の指導について 学年ごとに指導内容を定め、年齢に沿った指導を行うことで、食に対する興味、関心を高めることができた。また、給食だよりを月1回発行することで、保護者に対しても食育に対する意識を高めることができた</p>			3,237	3,126	111
課 題	<p>○平成22年、23年度と2年続けてに給食事故(虫の異物混入)が発生している。24年度は7月1日現在発生していないが、過去2年とも休み明け(冬休み、春休み)に発生していることから休み明けの調理員等の仕事への入り方が課題。 ○昨年度からの課題であるが、調理場の一斉点検の指摘事項から薬剤師等を含めた各種運営委員会(衛生管理委員会・献立作成委員会・物資選定委員会)の作成が必須。 ○H24.7.1現在小中学校の給食費の未納額が66万円程発生しており、全体の0.25%を締め調理場の運営に支障をきたしている。</p>					
今後の方向性	<p>○衛生管理委員会・献立作成委員会・物資選定委員会の設置することにより、調理場内だけではなく、外部からの意見を取り入れることと、例年通り児童等からアンケートを行い、食育の充実と子供たちに喜ばれる学校給食の提供に努める。 ○年2回(夏・冬休み)の害虫・ねずみ点検と各調理員へ休み明けの仕事への入り方に注意を促し、異物混入の防止に努める。 ○給食費の未納に関し、生活保護受給者の未納が多くを占めており、催促を行っても納付されない場合は特別納付、児童手当からの天引きなどの対処が必要。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果					
B	B		<p>ゆうばり小・夕張中共同調理場の運営に係る人件費を除く諸経費を計上するものであり、必要最小限の予算で安全・安心な給食を提供している。また、学校における食育の生きた教材となる給食の充実を図るため、可能な限り地場産物の活用や米飯給食の充実に努めている。昨年度からの課題であるが、献立作成にあたっては外部の意見を取り入れることや、異物混入など給食事故の根絶など徹底した安全管理による信頼される給食の供給を図る必要がある。</p>			

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(3) 中学校給食業務（調理員賃金）	10,743	10,741	2		
事業実績及び効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゆうぱり小・夕張中共同調理場の調理員雇用に係る賃金及び社会保険料を措置したもの ・ 給食供給数 510食 ・ 調理員数（臨時）フルタイム 8名 パートタイム 1名 <p>H23年度4月、小学校を統合したことにより、調理場も一つになり、市内の児童・生徒全ての給食数を調理しなければならず、衛生・安全面においてはこれまで以上に配慮が必要となった、年度当初は食数が大幅に増加したため、急きょ調理員の勤務時間を増やし配置をしたものである、その間、今後の効率的な調理方法の策定に努め、5月からは通常の勤務体系となり、安全・安定的に給食を提供できている。</p>					
課題及び今後の方向性	<p>現在の給食調理員全てが、統合前から雇用している勤務経験の長いベテラン調理員であることから調理については非常に慣れていているという反面、欠員が生じたときにそれを埋める人材の確保が難しいという側面がある、業務手順のマニュアル化や簡素化に努める必要がある。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>本市の給食共同調理場については、自校方式により運営しており、調理員についても正職員の配置はないものの、ベテランの臨時職員を適正に配置することにより、安全・安心で美味しい給食の提供に努めている。今後も衛生管理の徹底と、地域に密着した給食の提供に努める。</p>				
B	B					

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育																
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)																
	(4) 児童・生徒健康管理	578	415	163																
事業実績及び効果	<p>○出席停止、学級・学校閉鎖に関して 学校保健法第12条に基づく伝染病に関しては学校医と養護教諭等との連携を密に行い、適確に出席停止、学級・学校閉鎖を行い、感染症の拡大防止に努めた。</p> <p>○学級・学校閉鎖実績 学校閉鎖に関しては2回（小1幼1）で合計日数は7日 学級閉鎖に関しては7組（小のみ）合計21日であった。 学級閉鎖の原因としてはすべてインフルエンザであり、流行期間は1月下旬から2月中旬までのおよそ1か月間であった。</p> <p>○感染症別出席停止患者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>インフルエンザ</th> <th>溶連菌感染症</th> <th>流行性耳下腺炎</th> <th>水痘</th> <th>手足口病</th> <th>マイコプラズマ肺炎</th> <th>ウイルス性胃腸炎</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>132名</td> <td>17名</td> <td>36名</td> <td>16名</td> <td>5名</td> <td>3名</td> <td>1名</td> </tr> </tbody> </table>						インフルエンザ	溶連菌感染症	流行性耳下腺炎	水痘	手足口病	マイコプラズマ肺炎	ウイルス性胃腸炎	132名	17名	36名	16名	5名	3名	1名
	インフルエンザ	溶連菌感染症	流行性耳下腺炎	水痘	手足口病	マイコプラズマ肺炎	ウイルス性胃腸炎													
	132名	17名	36名	16名	5名	3名	1名													
<p>○学校保健安全法施行規則に定められた健康診断、環境衛生検査等に関しては遅滞なく実施をした。</p> <p>○結核健診に関して 問診票、内科健診時の問診により判断しており、昨年度の精密検査要検討児童・生徒はいなかった。また、夕張市は南空知結核対策委員会に属しており、要検討児童・生徒がいた場合においても適切な判断をくだすことができる。</p>																				
課 題	<p>○各学校一校化に伴い、感染症が広がりやすく、特に小学校において患者数が増加傾向にあり、うがい、手洗い等感染症予防に努めているが、低学年の感染を狭い校舎内でどのように防ぐかが課題となっている。</p> <p>○平成25年度より、南空知結核対策委員会の事務局の輪番が夕張市となっており、医師会、学校長等への協力の依頼を進める。</p>																			
今後の方向性	<p>○以前より来校者の消毒の徹底や、児童生徒に対する「うがい」、「手洗い」等指導を行っているが、更に指導の徹底を図る必要がある。</p> <p>○今後も学校保健法、同法施行規則に沿い、確実に健診・検査等を行い、児童生徒の健康・安全に努める。</p>																			
教育委員会の自己評価																				
事業達成度	事業効果	<p>養護教諭、学校医等の協力により、児童・生徒の健康診断や環境衛生検査はスムーズに実施することができた。</p> <p>また、小中学校の1校化に伴い、インフルエンザの出席停止者数が前年度に比べおよそ2倍（22年度65名）に増加している。感染が増加したのは小学生で特に低学年で多くみられた。</p>																		
B	B																			

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

事務事業名	6 幼稚園教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
目的及び概要	創造性にあふれ、心豊かな子どもの育成のため、地域の保育園、学校、福祉施設などとの交流を通し、人々との触れ合い体験による社会性の育成や、学びと遊びを中心とした教育課程の充実を図るなかで、魅力ある幼稚園づくりに努める。					
平成23年度の主な事務事業名及び決算額	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(1) 幼稚園運営（人件費を除く）	4,994	4,582	412		
事業実績及び効果	<p>○他校種等連携 清陵保育園・ゆうばり小学校交流（年4回）、夕張中学校・札幌工業高校来園。 学習の一環としての活動を通し、異年齢の触れ合いやものづくりを体験し、創作や遊びの創意工を築くことができた。</p> <p>○食育教育の充実 枝豆・芋・トマトの栽培や雪を利用したアスパラ栽培を見学し、丈夫な体作りと食べ物育てる心の育成など、総合的な食育に効果を上げた。</p> <p>○特色ある教育活動 ALTによる「英語遊び」、施設訪問（清光園・虹ヶ丘）を通して異文化を知り、高齢者に喜びを与える学び（練習）の意欲化に繋がった。</p> <p>○地域との連携 読み聞かせボランティアの活用、地域活動団体との連携により読書意欲の向上や幼児対象の企画に参加して友達の幅を広げ、小学校就学時の安心育成に効果を上げた。</p> <p>○保護者との連携 年5回の保育参観・懇談会や各種行事の企画により保護者の来園を呼びかけ、教育活動の理解と信頼関係を築くことができた。</p>					
課題	<p>○定員（定員70名、在園児23名）割れの解消努力と園児募集の強化。</p> <p>○施設の老朽化に対する対応。</p> <p>○専門性を高める研修の助成対応。</p>					
今後の方向性	<p>○募集要項の広報への定期的な掲載（2か月に1回程度）と募集ポスター掲示位置の再構築をし、入園児増加に努める。</p> <p>○各交流事業に関しては継続して行い、社会性の育成に努める。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	人口減少と少子化により、大幅な定員割れが続いており、今後の園児数の動向によっては、園の在り方を含めた対応も必要である。当面はALTによる英語遊びや、福祉施設等との交流、小・中・高との連携など特色ある教育課程を推進することなどによる園児獲得を図る必要である				
B	A					
評価委員会の評価判断及び意見						
判定	<ul style="list-style-type: none"> 他校種等連携については、市内小中学校と年数回にわたり交流を行っている他、高等養護学校や市外高校との交流も行っており評価できる。 					
B	<ul style="list-style-type: none"> 食育教育については、市内農家見学等を行い、園児が食の大切さ、生産者の苦勞等を肌で学んでいることは評価できる。 特色ある教育活動については、市のALTによる「英語遊び」を月1回行い、園児が米国人教師の指導により本場の英語に触れていることは評価できる。また、「ことばの教室」に通級する児童との交流により、互いの立場を理解できることは大変良い取り組みと考える。 					
<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携については、運動会や発表会等の行事に地域に交流を呼びかけ連携を図っているが、園児が市内の広範囲から通園しているため、全市的な交流は難しい課題もある。 保護者との連携については、各種行事等における連携に加え、時間外の預かり保育も実施しており、保護者の負担軽減の意味からも継続した対応が必要である。 ユーパロ幼稚園の一番の課題は、人口の減少により園児の確保が難しくなることであり、そのためにも今以上に魅力ある園づくりを行って欲しい。園児の募集方法についても工夫をこらし、最低でも現在の園児数を維持すると共に、幼保一元化も視野に入れ、より良い幼児教育の在り方を検討して欲しい。 						

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

事務事業名	7 文化振興	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育
目的及び概要	社会構造の変化に伴い、多様化する市民の学習要求に対応し、市民一人ひとりが心豊かに充実した生活を実現するため、市民の自発的学習活動を援助すると共に、体系的、継続的な社会教育行政を推進する。			
平成23年度の 主な事務事業名 及び決算額	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)
	(1) 児童生徒鑑賞教室	500	500	0
	(2) 公民館事業	247	247	0
	(3) ふるさとギャラリー事業	0	0	0
	(4) 生涯学習プロジェクト事業・わくわくプロジェクト事業	0	0	0
	(5) 文化財保護事業	0	0	0
	(6) 図書コーナー事業	0	0	0
事業実績及び効果	別紙細目(1)～(6)のとおり			
課題	別紙細目(1)～(6)のとおり			
今後の方向性	文化振興については市民が充実した生活を送るために不可欠なものであることから、市民との連携を強化し、これらの事業について継続的に推進していきます。			
教育委員会の自己評価				
事業達成度	事業効果	児童生徒に係る夕張学校鑑賞教室については予算が確保されており、舞台芸術を身近に体験できる貴重な機会を提供している。その他の事業については、予算化されておらず、社会教育委員、文化財保護委員、ボランティアの皆様及び職員の連携と創意工夫された活動により、比較的スムーズな運営が行われている。		
B	A			
判定	評価委員会の評価判定及び意見			
A	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒鑑賞教室の落語公演は、子ども達が日本の伝統的文化を肌で感じることでできる取り組みであり、社会教育の観点からも大きな教育的効果があった。また、児童劇についても生の舞台を鑑賞することは子ども達の感性を育む上で高い教育的効果があったが、一般市民の参加が少ないため、各種媒体を活用し、これまで以上に市民周知を図る必要がある。 公民館事業は地域学習の拠点として各種事業が行われている。「もも倶楽部」は高齢者の「生きがいと、健康をテーマ」に開催され成果をあげてきたが、近年参加者が減少しているため、実施日程や講座のカリキュラム編成について再検討されたい。また、雪月花展、書初め大会、短詩文芸大会については、補助金の廃止や会員の高齢化により活動が困難となっているため、行政も関りながら合同「文化イベント」などの開催を検討して欲しい。 ふるさとギャラリー事業は市民の認知度も高まり、子どもから大人まで幅広い市民の創作・発表の場として寄与しており、文化の高揚と新たな芸術の担い手の発掘にも繋がるもので高く評価する。 生涯学習プロジェクト事業は、基金を活用し市民が中心となって生涯学習事業に取組み、「ななびーば」の発行、市民ハイキングなど幅広い事業を行っていることは評価できる。近年参加者が減少傾向にあるため、広く市民に参加を呼び掛けるなどの工夫が必要である。 わくわくプロジェクト事業は、民間団体の助成と参加者負担金で運営され、子どもを対象に芸術的な体験の場として貢献しており評価できる。今後指導者不足に向けた取り組みと、運営資金の確保が課題となっている。 文化財保護事業は、予算が無い中、夕張鹿鳴館の登録有形文化財登録など様々な活動を行っており評価できる。今後は歴史的資料や文化財の保護と基礎研究、また展示などについて市内団体との連携を図られたい。 図書コーナー事業のうち、子どもへの読書支援として行っている本の読み聞かせは、子どもの感性を高め、教育的効果は大きい。また、小中学校1校化により、学校図書室の持つ役割は大きく、市民ボランティアと連携した利用の拡大と、書架の整理などに取組んでいることは評価できる。図書コーナーの利用者は市民ボランティアなどとの連携や市民周知の効果などにより利用者が増加していることは喜ばしいことである。図書まつりも市民ボランティアの協力により、「遊びと楽しさ」を提供する場として定着しており、大きな効果が認められる。なお、マチの文化の発信拠点として、書籍の購入や資料の展示等に要する最低限の予算確保が必要である。 			

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	7 文化振興	担当課	教育課	学校教育	社会教育	社会体育
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(1) 児童生徒鑑賞教室	500	500	0		
事業実績及び効果	<p>①落語 公演団体：落語芸術協会 日時：平成23年8月29日（月）10:35～12:10 会場：ゆうばり小学校体育館 対象：小学校児童及び一般市民 日本の古典芸能にふれることで伝統文化に興味を持ってもらうことができた。 落語3席のうち1席は踊りで、低学年も楽しんでおり色物ではアンコールも出ていた。生の舞台芸術を肌で感じる貴重な経験をすることができた。</p> <p>②児童劇 公演団体：劇団さっぽろ 日時：平成23年7月15日（金）10:45～12:20 会場：夕張中学校体育館 対象：中学生及び一般市民 北海道教育委員会推薦の優れた巡回小劇場の作品を提供することができ、観劇後、ワークショップも実施した。</p> <p>各学校の鑑賞事業担当教諭と市教委職員で構成する実行委員会で実施したことから、学校側の希望などが取り入れやすく、また学校が主体的に対応することで、子どもたちも「イベント」ではなく「授業」の一環として受け入れ易い体制になっている。</p>					
課題	<p>内容が昨年と類似したものであったことから、平成24年度には違うジャンルのものを実施することを検討すべきである。そのことが児童・生徒の興味をより一層引き出し、学習効果を上げることにつながっていくと考える。なお、一般市民の方の参加が相変わらず少ないため、周知の方法等を再考すべきである。</p>					
今後の方向性	<p>舞台芸術を身近に体験できる貴重な機会であり、今後も継続していくべき事業であると考えます。 小学校が一校になって初の鑑賞教室であったが、会場への移動が無くなったことから、時間的・予算的にも非常に実施しやすくなった。 内容・運営については、実行委員会（各学校の担当教諭）の主体性が求められる。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>年に一度ではあるが、学校で間近に舞台芸術にふれることは、児童生徒の芸術的な感性を養うことにつながり、情操教育において非常に意義あるものと言える。 また、鑑賞態度を学ぶ上でも有意義なものであり、今後も継続して実施する必要がある。</p>				
B	A					

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	7 文化振興		教育課	学校教育	社会教育	社会体育
事業項目	項 目			予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)
事業実績及び効果	(2) 公民館事業			247	247	0
課 題	<p>高齢者学級「もも倶楽部」</p> <p>6月 ゴミの分別について</p> <p>7月 香りのある暮らし～サシェ（匂い袋）を作ろう</p> <p>8月 健康について</p> <p>9月 視察研修 札幌市（白い恋人パーク他）</p> <p>10月 音楽の世界を覗こう</p> <p>11月 クリスマスリースを作ろう</p> <p>12月 パソコンを使って写真で遊ぶ</p> <p>もも倶楽部については、高齢化が著しい当市において、高齢者に生涯学習の機会を提供するため保健行政や関係機関と連携し、生きがい・健康をテーマとした講座や講演を計画的に提供している。運営は受講者の負担金のみで実施している。</p> <p>雪月花展、新春書初大会、短詩文芸大会などは、主催者としてではなく開催協力者として関り、市民主体での交流を促進している。会員の市外転出と高齢化、また学習の個人化が進む中において、サークル等への会員増は難しく、文化活動の活性化のための発表機会などでは、今後更に人的支援が必要である。</p>					
今後の方向性	<p>高齢者学級については参加者が年々僅かずつ減少しており、地域的に偏りもあるため、平成24年度は曜日の設定を変更する必要がある。</p> <p>また、小学校の一校化に対応し、幼児・親子などを対象とした事業の企画も必要である。</p> <p>公民館事業は市民が心豊かに生活し、生きがいを感じることができる事業として非常に重要である。</p> <p>今後、ますます人的支援等が必要になると予測されるが、可能な限り参加者のニーズに応え、かつ内容を充実させていくよう努める。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果					
B	<p>予算がなくなったことにより、定期講座や機会事業の提供ができなくなった中において、現在実施している事業は、市民の参画により残ってきた事業である。</p> <p>その意味からも「公民館」は市民にとって不可欠な施設であり、今後も市民主体で事業を進めるとともに、事業の内容がより充実したものとなるよう努める必要がある。</p>					

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	7 文化振興	担当課	教育課	学校教育・ 社会教育 ・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(3) ふるさとギャラリー事業	0	0	0		
事業実績及び効果	<p>4月 山家有人習字展 5月 バッチワーク展 6月 切り絵作品展（地域活動支援センター） 7月 いのちのパネル展（北海道交通事故被害者の会）、切り絵展 8月 子どもたちの元気な夏の作品展（保育協会） 9月 旅する写真展～福島編 10月 子どもたちの元気な秋の作品展（保育協会） 12月 緑風展（夕張高等養護学校） 1月 公民館書初大会作品展、子どもたちの元気な冬の作品展（保育協会） 3月 山家洋人習字展</p> <p>市民の作品の展示会場として広報ゆうばりで事業内容を周知したこともあり、市民の創作活動の発表の場として定着している。 作品を発表することで充実感を得ることができ、さらなる創作意欲へとつながるものと思われる。また、作品を鑑賞した側にも大きな影響を与え得ることから、市民の文化活動の活性化へ大きく貢献できる事業である。さらに、癒しや安らぎの空間としての機能も十分に果たしている。</p>					
課題	<ul style="list-style-type: none"> • 作品を発表する市民の発掘、情報の把握が必要である。 • 展示会の満足度を高められるよう、展示の工夫などの適切なアドバイスを行える職員の学習や、会場の付加価値も高める取り組みも必要。 					
今後の方向性	なるべく多くの方が、展示機会が持てるよう、また多くの方に見てもらえるような場所にしていく必要がある。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	市庁舎の空きスペースを活用したギャラリーを設置して4年が経過し、市民の認知度も高まってきた。 今後、今まで以上に高い頻度で、多くの分野の作品が発表されていくものと期待される。				
B	A					

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	7 文化振興	担当課	教育課	学校教育	社会教育	社会体育
事業項目	項 目			予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)
	(4) 生涯学習推進プロジェクト事業・わくわくプロジェクト事業				0	0
事業実績及び効果	①生涯学習推進プロジェクト事業内容		参加者			
	6月 鉢花と春の花でルッポ M/Tを楽しもう		7名			
9月 市民ハイツ		11名				
10月 夕張記録をつくろう		25名				
11月 図書まつり		約90名				
<p>事業は平成19年度に設立し、生涯学習馬場基金と参加者負担金で運営。社会教育委員経験者を中心に社会教育関係職員、市民等でスタッフを構成。毎月、生涯学習カレンダー「まなびーば」を発行し幼稚園、保育園、小・中学校に配布。</p> <p>保護者への生涯学習の情報提供を通じ学習意欲を高める手助けをしている。また実際に講座や体験事業を企画運営し、生涯学習の楽しさを広める実践をしている。</p>						
事業実績及び効果	②わくわくプロジェクト事業内容		参加者			
	夏・9講座（消しゴムハンコを作ろう他）		159名			
冬・8講座（楽しい科学工作他）		74名				
特別企画活動・バードハウス設置会・トンネル見学会		延べ48名				
(NPOフェザードフレンド・NEXCO東日本と共催)						
わくわくクリスマス会		48名				
<p>事業は「読売光と愛の事業団」からの助成金と参加料で運営。学校教育関係者・社会教育関係者・児童福祉関係者で実行委員会を構成。平成9年度設立。当初は美術館事業。幼児・小中学生を主に、芸術的な体験の場を創出している。</p> <p>学校教育と社会教育の利点を生かした事業運営を目指しており、各実行委員の学びの場でもある。</p>						
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 参加者はリピーターが多いので、新規参加者を開拓するため、より広い分野の講座の開催が求められる。 学校の統合による教員数の減少に伴う人材不足と教員以外の実行委員の確保が必要。 助成金は平成28年度までとなっており、それ以降の財源見通しは立っていない。 					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 事業内容をより多様なものとし、時代に即した事業も交え、生涯学習社会構築の一助となるプロジェクトを目指す。 市外に異動した実行委員に、より積極的に参加してもらうように働きかける。 委員以外の人々のアイディアも取り入れ、これまでに無かった発想の講座を開催する。 					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果					
B	A		<p>社会教育関連事業の予算が全くない現状では、「社会教育」を進める上で市民団体との連携事業は不可欠なものとなっている。そのことから、本事業の果たす役割は極めて大きいと言える。</p> <p>社会教育関係職員もスタッフの一員であり、団体の活動趣旨と運営の利便を考え市教委で事務局的な補佐をしている部分もあるが、あくまで市民団体の活動であり、勤務時間以外の活動はボランティアとなっている。</p>			

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	7 文化振興	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(5) 文化財保護事業	0	0	0		
事業実績及び効果	<p>平成22年度に夕張鹿鳴館（北炭鹿ノ谷倶楽部）の国の登録有形文化財への登録に向けた手続き（文化庁への推薦等）を行ったが、5月の文化庁の文化財調査官による現地調査を経て、7月15日に国の文化審議会から文部科学大臣に登録の答申が行われた。それを受け、10月28日に正式に登録となった。</p> <p>旧森林鉄道の「三弦橋」等を含む『夕張スーパーパロ湖周辺の橋梁群とその景観』の市文化財への指定について、2回の文化財保護委員会で協議を行った。さらに、それと並行して「北海道開発局札幌開発建設部夕張スーパーパロダム総合建設事業所」とも頻繁に協議を行った。</p> <p>夕張岳に関しては、夕張岳関係者協議会を開催し、天然記念物「夕張岳の高山植物群落及び蛇紋岩メランジュ帯」の保護・保全について関係各位と意見交換を行った。</p> <p>高山植物盗掘防止のための監視・キャンペーン活動が、空知総合振興局が主体となって計3回実施されたが、キャンペーン活動に1回参加できたのみであった。</p> <p>天然記念物の現状変更許可申請（7件）については、適切に処理を行った。</p> <p>夕張市内で産出した化石資料を用いて、夕張中学校一学年の総合的な学習の時間で講義を行った。</p>					
課題	<p>文化財保護事業に対しては予算措置がなされていないが、最低限の維持管理は必要であるため、今後、予算措置や人員確保について検討していく必要がある。</p> <p>夕張岳での保護活動への参加が十分ではなかった。</p>					
今後の方向性	<p>文化財保護に関わる予算要求を検討するとともに、文化財保護活動への市民参加を促していく。</p> <p>また、文化財の現状の確認及び文化財候補の調査を行い、それらを用いた市民への普及活動も実施していくとともに、市民団体等との連携を深める。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>予算がなく人員も不足している状況ではあるが、文化財保護委員と協力しながら文化財の現状確認、登録有形文化財への登録など、一定の成果を上げることができた。</p> <p>今後、他の機関と連携した活動を推進する必要がある。</p>				
B	B					

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	7 文化振興	担当課	教育課	学校教育・ 社会教育 ・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(6) 図書コーナー事業	0	0	0		
事業実績及び効果	<p>①子どもへの読書支援 月1～2回乳幼児健診会場での読み聞かせ・絵本紹介 道立図書館・読み聞かせボランティアの協力による学校ブックフェスティバル 週1回小学校での朝の読み聞かせ 乳幼児健診会場では親子が絵本を読みあうのが見受けられ、小学校では子ども達が読み聞かせに集中していることから一定の効果があがっている。</p> <p>②学校図書室整備 小学校が一校になり、春に図書室の整備をしたが、その後もボランティアと共に書架の整理に向いた。 中学校の図書の整備も購入・寄贈の都度、図書コーナーで行なっている。学校図書室に、図書コーナーとボランティアが積極的に関わることによって、小中学校ともに図書室の利用が増えている。</p> <p>③図書まつり クマの毛皮を展示し、クマにちなんだおはなし会（夕張子ども文化の会協力） 平野美和子氏語り（読み聞かせボランティア協力） 工作コーナー（生涯学習推進プロジェクト協力） 世界昔話絵本展（道立図書館協力） 各市民団体や道立図書館の協力により、大盛況のイベントとなった。</p>					
課題	<p>もっと工夫された展示コーナーと通信（たより）で図書コーナーのPRに努める必要がある。 郷土資料の整理が不十分で、利用者の調べものに充分応えられなかったり、或いは時間がかかる現状がある。</p>					
今後の方向性	<p>非常に大きな力となっているボランティア団体へ、事業への協力を引き続きお願いする。 市民の読書活動を支え情報発信の場となっている図書コーナーを、資の料収集・展示の面でもより充実したものとなるよう努める。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>ボランティア団体の活発な活動により、図書コーナーの事業が成り立っている。 子どもへの読書支援を継続しながら、一般市民への啓発活動及び情報発信も充実させることとしたい。</p>				
B	A					

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

事務事業名	8 スポーツの振興	担当課	教育課	学校教育・社会教育	社会体育
目的及び概要	子どもからお年寄りまで、市民があらゆる機会を通じて、気軽に楽しくスポーツ・レクリエーション活動に参加できるよう、生涯スポーツを目指したスポーツ環境の整備を推進するとともに、施設利用者の利便性を考慮し、合理的な施設運営に努める。				
平成23年度の主な事務事業名及び決算額	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)	
	(1) 文化スポーツセンター管理	11,838	10,847	991	
	(2) 平和運動公園管理	7,092	6,998	94	
	(3) 体育施設管理	928	926	2	
	(4) 清水沢プール管理	2,677	2,522	155	
事業実績及び効果	別紙細目(1)～(4)のとおり				
課題	別紙細目(1)～(4)のとおり				
今後の方向性	<p>施設利用者に支障や事故が起きないように適切な管理運営を行う。また少しでも多くの方々に気持ち良く利用していただけるよう、利用者の利便性を第一に考えた施設運営に努めることにより、利用者の減少傾向に歯止めをかけた。</p> <p>また、引き続きネーミングライツによる新たな財源の確保に努力し、より良い施設環境を作り上げていきたい。</p>				
教育委員会の自己評価					
事業達成度	事業効果	一部のスポーツ施設については老朽化が進み、維持管理には膨大な経費が必要になるが、最低限の予算の中で利用者に多少の不便をかけながらも、限られた職員体制の中で創意工夫をしながら施設運営を行っており、スポーツ振興や地域の活性化にも貢献している。			
B	A				
評価委員会の評価判定及び意見					
判定	<p>・文化スポーツセンターの管理については、暮らしのカレンダーや市のホームページなどにスポーツ等の行事を掲載するなど広く情報発信し、施設利用に貢献していることは評価できる。また、限られた予算の中で老朽化した施設設備の維持管理に努めていることは評価する。なお、ネーミングライツについては、引き続き販売促進を進め、施設運営の財源確保に努めて頂きたい。</p>				
A	<p>・平和運動公園の管理については、本年度から文化スポーツセンターと同様、市のホームページで予約状況の確認ができる体制が整い、利用者からも好評を得ていることは評価できる。</p>				
<p>施設の素晴らしさは全国的にも高い評価を得ており、芝などのメンテナンスも良く、各種スポーツ大会や合宿などの利用により地域経済の振興にも寄与している。施設の整備に関しては臨時職員での対応のため、メンテナンスに関わる人材確保が課題となる。</p> <p>・指定管理により運営されている体育施設については、利用が減少していることから、指定管理者と連携し、きめ細かなPR活動などによる利用者の掘り起こしが必要である。なお、夕張岳ヒュッテの建替えに関し、関係機関との連絡調整などに努めていることは評価できる。</p> <p>・清水沢プールについては、子ども達や市民が水に親しむ施設として貢献している他、保育園、幼稚園、小学校のプール授業にも利用されており教育的効果は高いものである。また、消防職員などを講師に実施している水難防止教室の場としても活用されていることは評価できる。</p>					

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	8 スポーツの振興	担当課	教育課	学校教育・社会教育・ 社会体育							
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)							
	(1) 文化スポーツセンター管理	11,838	10,847	991							
事業実績及び効果	<p>○事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供 市民に漏れなく行事予定などを周知をするため、「暮らしのカレンダー」にスポーツ、レクリエーション等の行事を掲載するとともに、サークル紹介のポスター掲示等により情報提供に努めてきた。 また、平成23年度より市ホームページで予約状況を確認できるようにしたことから、市外からのスポーツ大会、合宿などについての問い合わせがスムーズになった。 ・設備維持管理 年数を経て施設・設備が老朽化し、利用者には不便を強いることがあると思われるが、対応できる限り修繕・整備を行ってきた。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>占用件数</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スポーツセンター</td> <td>702</td> <td>18,487</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ネーミングライツ 昨年中に募集を行ったが応募がなかったことから、(株)バイキューブシーと販売代理業務委託契約を締結し、販売推進にあっている。 また、募集ポスターを文化スポーツセンターに掲示している。 						占用件数	人数	スポーツセンター	702	18,487
	占用件数	人数									
スポーツセンター	702	18,487									
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・施設や器具の老朽化による修繕や規格改正による更新も求められるため、計画的な維持管理が必要である。 ・アリーナの床面が滑りやすい状態で、利用者の支障となっているため、ワックス掛けを含む床清掃業務を実施する必要がある。 ・現在は、サポートセンター職員と臨時職員により、ぎりぎりの体制で管理を行っているが、今後も同程度の人員を確保する必要である。 										
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・市民のスポーツ及びレクリエーション活動に支障が生じないように、必要な情報提供と施設整備に努める。ネーミングライツについては、引き続き販売を推進し財源の確保に努める。 ・施設の維持や利用者の安全確保に必要な事柄については、財政再生計画の変更も含めた予算措置を検討する。 										
教育委員会の自己評価											
事業達成度	事業効果	<p>人口の減少や少子高齢化の影響により、文化スポーツセンターの利用数は減少傾向にあり、また施設の利用についても大会や合宿の規模も小さくなってきているが、利用者が安全かつ快適にスポーツやレクリエーションを楽しめるよう、環境整備と施設管理に努めている。</p>									
B	A										

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	8 スポーツの振興	担当課	教育課	学校教育・社会教育	社会体育												
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)													
	(2) 平和運動公園管理	7,092	6,998	94													
事業実績及び効果	<p>○事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供 文化スポーツセンターと同様に「暮らしのカレンダー」に開催される行事を掲載し、情報提供及び問い合わせの受付を行ってきた。 また、平成23年度から市ホームページで予約状況が確認できるよう整備した。 ・施設維持管理 陸上競技場を含め、4面のグラウンドと野球場を有し、全国的にも高い評価を得ている天然芝のグラウンドの維持・管理のために、利用の合間をぬって芝の補修・育成等のメンテナンスを行っている。 サッカー、ラグビー、野球などの大会や合宿が開催されることにより、宿泊施設をはじめ、市内経済の活性化の一助となっている。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>件数</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>球技場</td> <td>59</td> <td>12,322</td> </tr> <tr> <td>陸上競技場</td> <td>21</td> <td>4,224</td> </tr> <tr> <td>野球場</td> <td>39</td> <td>3,595</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ネーミングライツ 文化スポーツセンターと同様スポンサーの募集を行っている。 						件数	人数	球技場	59	12,322	陸上競技場	21	4,224	野球場	39	3,595
	件数	人数															
球技場	59	12,322															
陸上競技場	21	4,224															
野球場	39	3,595															
課題	<p>施設の維持管理のための予算が十分ではなく、維持補修費が不足している。 過密なスケジュールでの利用で、グラウンドの芝に痛みが目立つため、芝の一部張り替えが必要である。 施設の面積が広大であり、ボランティアの助けも借りて管理している状態であり、慢性的な人員不足を解消する必要がある。</p>																
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も施設の利用に支障が生じないよう、必要な情報提供と施設整備を行う。 ・施設の維持に必要な事柄については、財政再生計画の変更も踏まえた検討を行う。 ・財源確保のため、文化スポーツセンターと一体でネーミングライツスポンサーの獲得に努める。 																
事業達成度	事業効果	<p>社会情勢などにより、施設利用における大会や合宿が小規模になってきているが、管理された天然芝により利用者からは一定の評価を得ている。 また、大会や合宿が行われることで滞在人口が増加し、市の経済の活性化の一助となっている。</p>															
B	A																

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	8 スポーツの振興	担当課	教育課	学校教育・社会教育 社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(3) 体育施設管理（指定管理施設）	928	926	2		
事業実績及び効果	<p>夕張市が再建団体となって、市直轄での体育施設管理が厳しくなり、平成18、19及び20年度から指定管理を行っているもの。</p> <p>体育施設管理の予算については、トラックの維持管理経費及び施設の土地借料のみである。</p> <p>平成23年度より、夕張岳登山口に設置されている簡易トイレのし尿処理を行うこととなった（これまではコウパニコザクラの会が好意で実施）。</p> <p>大雪の影響で、南部市民体育館の屋根に、倒壊する恐れがあるほどの雪が積もったため、暖房を焚き続けることによってその雪を落とした。</p> <p>○事業実績</p> <p>指定管理施設</p> <p>1 夕張市南部市民体育館（指定の期間 平成23年4月1日～平成28年3月31日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用人数 H23 783人 H22 826人 ・効果 フットサルや太鼓など、地域に根ざした活動の一助となっている。 <p>2 夕張市紅葉山パークゴルフ場（指定の期間 平成23年4月1日～平成28年3月31日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用人数 H23 3,852人 H22 4,236人 ・効果 開設以来パークゴルフの普及、発展に寄与している。 <p>3 夕張市民健康会館（指定の期間 平成23年4月1日～平成28年3月31日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用人数 H23 3,839人 H22 3,938人 ・効果 サッカー・バドミントン・少年野球・ミバレーなど、多様な競技に利用されている。 <p>4 夕張市営球場・緑が丘球場（指定の期間 平成23年4月1日～平成28年3月31日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用人数 H23 1,118人 H22 1,354人 ・効果 市内にはチーム数も多く、利用頻度は高い。 <p>協定書による無償管理委託の施設</p> <p>1 夕張岳ヒュッテ（指定の期間 平成23年6月1日～平成23年10月31日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用人数 H23 222人 H22 196人 ・効果 避難小屋として、また安全な登山、事故等の救助拠点としての効果は高い。 					
課 題	<p>体育施設に係る修繕等の予算がまったくない状況の中、老朽化が進み今後の管理に不安を残す。</p> <p>また、登川プール及び市民健康広場のセンターハウスが解体できないため、借地している国有地を返地できない。</p> <p>加えて、指定管理団体も高齢化が進み、会員が減るなど管理運営についても厳しい状況となってきているほか、人口の減少もあり利用人員も減少傾向にある。</p> <p>老朽化が進む夕張岳ヒュッテは、建て替えの必要がある。</p>					
今後の方向性	<p>今後も指定管理及び協定書による無償管理委託については継続することとし、施設利用者の利便性を考慮し、対応可能なものについては職員で対応することとする。</p> <p>夕張岳ヒュッテ建て替えに係る事務手続き等を進める。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>予算が全く無い中で、各指定管理者は創意工夫をして施設の管理運営にあたっている。これは、夕張市のスポーツ振興の一助となっていることから、今後も各指定管理者と共通理解のもと、協力しあいながら管理にあたることとする。</p>				
B	B					

平成 24 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	8 スポーツの振興	担当課	教育課	学校教育・社会教育	社会体育
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)	
	(4) 清水沢プール管理	2,677	2,522	155	
事業実績及び効果	<ul style="list-style-type: none"> ・7月～8月の実質稼働日数57日間で、計2,982人が利用した。（内訳 幼児374人、小学生2,268人、中学生56人、高校生1人、一般283人） そのうち有料入場者は、高校生1人、一般169人の計170人で、収入は52,490円であった。 ・平成22年度の利用者数の合計が2,153人であったため、829人の増員となった。また、学校等の授業での利用も750人から1,035人へと増加した。 ・小学校の1校化に伴い、友達同士での利用が増えている。 ・屋内プールであるため天候に左右されにくいいため、低水温等で営業中止になることがなかった。 ・ろ過機1機の更新工事を、平成22年度からの繰越明許の予算で実施した（1,160,000円の予算で1,134,000円の支出）。 ・7月23日に、オリンピック銀メダリストである中村真衣氏が講師を務める水泳教室が開催された。 				
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・水難事故防止のために監視業務が重要であり、夏休み期間中は常駐の1名の他にボランティアによる監視補助員をつけているが、今後その人員確保が課題となる。 ・本年度ろ過機2機のうちの1機を更新したが、もう1機も老朽化のため更新が必要である。 				
今後の方向性	<p>市内で唯一の水泳プールであり、子供たちが水に親しむ良い機会を提供していることから、必要な箇所の修繕や、事故・怪我のないように対応を行う。 施設の維持に最低限必要な事柄については、財政再生計画の変更も含め、必要な予算を確保する。</p>				
教育委員会の自己評価					
事業達成度	事業効果	<p>小学生を中心に、多くの市民に水泳を楽しむ機会を提供することができた。また、小学校・幼稚園・保育園のプール授業に貢献することができた。 消防職員の水難防止訓練の場としても、貢献することができた。</p>			
B	A				

資 料

- ・平成 24 年度夕張市教育行政点検評価実施要綱 48
- ・夕張市教育行政評価委員会設置要綱 49
- ・夕張市教育行政評価委員会実施要領 50
- ・夕張市教育行政評価委員会開催経過 51
- ・平成 23 年度夕張市教育行政執行方針

平成 24 年度夕張市教育行政点検評価実施要綱

(目的)

第 1 条 この要綱は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(昭和 31 年法律第 162 号)の規定に基づき、夕張市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況を自ら点検評価することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすために必要な事項を定めることを目的とする。

(点検評価の対象)

第 2 条 平成 24 年度における点検評価の対象は、教育委員会所管の事務事業のうち、平成 23 年度に実施した主要な事業とし、その取組み状況と成果について教育委員会が点検評価する。

- (1) 安全安心な通学体制の整備
- (2) 地域全体で学校を支える体制の充実
- (3) 小・中学校教育の充実
- (4) 学校施設設備の整備
- (5) 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実
- (6) 幼稚園教育の充実
- (7) 文化振興
- (8) スポーツの振興

(事業の達成度及び評価の判断基準)

第 3 条 事業の達成度及び効果の判断基準は次のとおりとする。

- (1) 達成度の判断基準
 - A 事業が十分達成された (達成度 9 割以上)
 - B 事業が相当程度達成された (達成度 7 割～8 割)
 - C 事業の達成度がやや不十分である (達成度 5 割～6 割)
 - D 事業が達成されなかった (達成度 5 割以下)
- (2) 効果の判断基準
 - A 十分な事業効果が得られた (9 割以上)
 - B 相当程度の事業効果が得られた (7 割～8 割)
 - C 事業効果がやや不十分である (5 割～6 割)
 - D 事業効果が不十分である (5 割以下)

(点検評価表)

第 4 条 点検評価表の様式は別紙のとおりとし、教育委員会の評価は事業毎に担当者が自己評価し教育長が最終決定する。

附 則

この要綱は決定の日から施行する。

夕張市教育行政評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 夕張市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第27条の規定に基づき、その権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価に関し、客観性の確保と効果的な教育行政の推進を図るため、夕張市教育行政評価委員会（以下「評価委員会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 評価委員会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 教育委員会が行う事務事業の評価に関すること。
- (2) その他教育委員会が必要と認める事項に関すること。

(組織)

第3条 評価委員会は、委員5人以内で組織する。

2 委員は、教育について優れた見識を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選出する。

2 委員長は、会務を統括し、会議の議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 評価委員会の会議は、必要に応じて教育委員会が召集する。

2 評価委員会は、委員の半数が出席しなければ会議を開くことができない。

(意見の聴取)

第7条 評価委員会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求めて意見又は説明を聞くことができる。

(庶務)

第8条 評価委員会の庶務は教育課学校教育係において行う。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、評価委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が評価委員会に諮って定めるものとする。

附 則

この要綱は決定の日から施行する。

夕張市教育行政評価委員会実施要領

1 実施方法

前年度の教育行政執行方針等に掲げる取組み内容の達成状況及び進捗状況に対する教育委員会の自己評価について、次項の視点に基づき教育面での有効性の観点から評価判定と意見具申を行う。

2 評価の視点

- (1) 事業の妥当性
- (2) 客観的根拠に基づき自己評価しているか
- (3) 社会情勢に対応しているか

3 評価の区分

- A 順調 (事業達成度 9 割以上)
- B ほぼ順調 (事業達成度 7 割～8 割)
- C 努力を要する (事業達成度 7 割以下)

4 点検評価表等の公表

夕張市教育行政点検評価表（自己評価調書）及び関係資料については、夕張市ホームページへの掲載等により随時公表する。

5 会議録記載事項

会議録に記載する事項は次のとおりとする。

- (1) 会議の日時及び場所
- (2) 出席者の氏名
- (3) 議題
- (4) 個々の発言内容の要旨
- (5) 発言者の氏名
- (6) その他委員長が必要と認める事項

夕張市教育行政評価委員会委員名簿

氏名	役職等	備考
藤原 哲	元夕張市監査委員	委員長
小網 敏男	夕張商工会議所専務理事	副委員長
菅原 孔道	大乘寺住職	
横川 孝一	夕張市社会福祉協議会会長	
白井 啓裕	夕張市校長会会長	

平成 24 年度第 1 回夕張市教育行政評価委員会議事録

9 月 4 日（火）15 : 30

夕張市役所教育委員室

※出席者 藤原委員・小網委員・横川委員・白井委員 菅原委員（欠席）
小林教育長・秋葉課長・古村担当課長 ※進行 古村担当課長

1 開 会

2 委嘱状交付 （教育長より白井委員へ）

3 教育長挨拶

昨年度から引き続きご苦勞をおかけしている。本年度についても平成 23 年度に教育委員会が実施した事務の管理及び執行状況の点検及び評価等を行ったが、評価の客観性を確保する意味で皆さんから、教育面での有効性の観点など評価判定とご意見を頂きたい。委員の皆様にはぜひ色々なご意見をいただき、よりよい教育行政の執行にあたりたいと考えている。

4 役員選出

- (1) 委員長 （藤 原 哲 様）
- (2) 副委員長 （小 網 敏 男 様）

5 委員及び事務局職員紹介（各自）

※以降進行 藤原委員長

6 報告事項（秋葉課長説明 24 年度教育行政の執行状況に関する点検評価報告書 48～50 ページ）

- (1) 平成 24 年度夕張市教育行政評価実施要綱
- (2) 夕張市教育行政評価委員会設置要綱
- (3) 夕張市教育行政評価委員会実施要綱

7 協 議 （秋葉・古村課長説明）

- (1) 平成 24 年度夕張市教育行政点検評価表について

平成 23 年度教育行政執行方針を踏まえ、平成 23 年度に行った市教委の事業の内、主な 8 つの事業（安全・安心な通学体制の整備、地域全体で学校を支える体制の充実、小・中学校教育の充実、学校施設設備の充実、児童生徒の健康管理及び学校給食の充実、幼稚園教育の充実、文化振興、スポーツの振興）についての報告書である。報告書は全体で資料含め 60 頁ほどになるが、各項目ごとに目的及び概要、主な事務事業名、予算決算額、事業実績及び効果、課題、今後の方向性、事業達成度及び事業効果の自己評価について説明する。

本委員会では評価委員会の評価判定と意見具申を行い、点検評価表（総括表）を完成させるもの。

(資料4頁～47頁により説明)

(2) 評価の進め方について

8項目を各委員で分担し案を提出、それを全体で討議し委員会評価と意見としたい。

- ・ 藤原委員 → (4) 学校施設設備の充実、(5) 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実
- ・ 横川委員 → (2) 地域全体で学校を支える体制の充実
- ・ 菅原委員 → (6) 幼稚園教育の充実
- ・ 小網委員 → (7) 文化振興 (8) スポーツの振興
- ・ 白井委員 → (1) 安全・安心な通学体制の整備 (3) 小・中学校教育の充実

各委員が担当した評価と意見の素案については、第2回目の委員会前の9月26日まで事務局にお届け願いたい。

(3) 今後のスケジュールについて

議会に報告書を提出し、同時に夕張市ホームページで市民の皆様に公表したいと考えている。議会への提出は、10月末を目途と考えている。

次回委員会で評価委員会の評価判定と意見具申の協議を行う。

3回目の委員会ではまとめと最終確認を行い確定する。

- ・ 第2回委員会 10月1日(月) 午後3時30分
- ・ 第3回委員会 10月15日(月) 午後3時30分

(質疑)

- ・ 白井委員 : 生徒指導に関する評価委員としての意見は、(3) 小・中学校教育の充実の項目の中で述べて良いか。
- ・ 事務局 : そのようにお願いします。
- ・ 白井委員 : バス添乗員の生の声を学校に伝えて欲しい。
- ・ 事務局 : 来年度からそのようにしたい。
- ・ 白井委員 : 中学校の重度身障の生徒に関わる支援員の勤務日数は実態に合っていないのでは。
- ・ 事務局 : 予算面での制約がある。今後の検討課題としたい。
- ・ 横川委員 : 中学校に配置している階段昇降機は定期検査しているか。
- ・ 事務局 : 平成22年度に小学校から中学校に移動した際点検している。
- ・ 小網委員 : 崩落した美術館の方針等の問題がふれられていないがなぜか
- ・ 事務局 : 美術館の今後の在り方についての方針が本年9月4日に決定されたので、来年度の報告書に記載される見込み。

8 閉 会

10 月 1 日(月) 15 : 30

夕張市役所教育委員室

※出席者 藤原委員長・小網副委員長・菅原委員・白井委員
秋葉課長・古村担当課長

※進 行 藤原委員長

1 開 会

2 協 議 (事務局説明)

(1) 評価委員会評価及び意見について 別紙

第 1 回評価委員会において各委員で分担した評価項目について、全体での協議を行った。

・ 1 安全安心な通学体制の整備 (白井委員)

(意見なし) 評価 : B

・ 2 地域全体で学校を支える体制の充実 (横川委員)

(意見なし) 評価 : B

・ 3 小・中学校教育の充実 (白井委員)

白井委員 : 「ことばの教室」運営に関し、指導員の専門的知識等の確保のため、十分な研修の保証とそのための予算措置が必要である。

藤原委員 : いじめの問題に関し、ここでは触れられていないのではないか。

白井委員 : 教育行政評価は主に教育予算に伴う事業評価であるため、直接触れられていないが、学校現場においては、日常の教育活動の中で日々対応しており、職員研修なども今まで以上に行っている。

事務局 : 市教委としても「いじめ」については重要な課題と受け止めており、学校との密な連携により、教育長を含め対応に努めている。 評価 : B

・ 4 学校施設設備の整備 (藤原委員長)

藤原委員 : 中学校前バス停から中学校に至る通学路は、道幅が狭く歩道もない状態であり生徒のマナーの悪さもあって地域住民から苦情も出ている。

事務局 : 当該通学路は旧清水沢中学校時代からの課題であり、学校で繰り返し指導を行っているが改善されない。今後の話であるが、南清水沢地区の公営住宅再編事業に併せ、当該道路の整備を行うよう、引き続き関係部署に要望する。

・5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実（藤原委員長）

白井委員：防災対教育は学校として普段から取り組んでいるが、市の防災対策に関し、小学校が河川のそばに位置していることから、万が一の場合に備えた防災対策と、市全域のハザードマップの作成が望まれる。学校としてもそれを踏まえた対応を行いたい。

評価：B

・6 幼稚園教育の充実

（意見なし） 評価：B

白井委員：幼保一元化に関し、市教委としての考えは。

事務局：今後も本市の児童数は減少が続くことが見込まれ、現在の幼稚園や保育所の体制を維持することは難しいことから、国の制度の在り方を注視しながら引き続き検討を行う。

・7 文化振興（小網副委員長）

（意見なし） 評価：A

・8 スポーツの振興（小網副委員長）

（意見なし） 評価：A

各項目の評価については、協議の結果を踏まえ、事務局で整理し最終的な評価と意見のまとめとする。

(2) 評価委員会の総評について

評価委員会として教育全体に関わるまとめの文章については、各委員からの総括的な意見を頂き、それを事務局が取りまとめる形で総評とする。

藤原委員：財政の非常に厳しい中、予算・決算の状況を見ても、工夫を凝らしながら教育行政を進めており、一定の効果をあげられている。

白井委員：今後市民の高齢化により、学校支援ボランティアなどの人材不足が課題となるため、人材の育成と確保に向けた取り組みが必要である。

小網委員：公民館活動に関し、市民の高齢化により「もも倶楽部」などの参加者の減少が懸念される。参加を即すため様々な形での市民周知や、工夫を凝らしたカリキュラム編成が必要である。社会教育の予算がない中、職員や市民ボランティアの努力を評価する。

(3) 今後のスケジュールについて

各項目別の委員会評価と意見については、本日の協議内容を踏まえ、総括的な文章の原案を

作成し、皆様にお示ししたい。第3回の委員会が最終的な委員会になると思う。

第3回委員会 10月15日(月) 午後3時30分

なお、市の平成23年度決算の認定が、消防本部の不適切化経理などの影響により、遅れる見込みであり、決算の認定が終了次第、定例教育委員会において協議決定し、市のホームページ等に掲載し市民に周知するとともに、議会に報告書を提出する予定。

4 閉 会

※出席者 藤原委員長（進行）・小網副委員長・白井委員（菅原委員・横川委員欠席）
小林教育長・秋葉課長・古村担当課長

1 開 会

2 教育長挨拶

お忙しい中お集まり頂きありがとうございます。本日は 23 年度教育委員会事業に対する第 3 回目の評価委員会であり、これまでご議論いただいた事のまとめということになりますが、この間の皆様のご苦勞に対し改めて感謝申し上げます。平成 23 年度は学校教育では小・中学校が 1 校化し、そのなかで教育委員会としてどのような支援を行うか、またそのための体制を整備するという課題に対し、具体的な方向性を示した年度でありました。また社会教育の分野では予算がない中、様々な課題を抱えておりますが、本年 2 月の美術館崩落に関わり、平成 24 年度以降の芸術振興策を考える中、5 月末に市民によるあり方検討委員を立ち上げ、ご論議を頂き、7 月には答申を頂いたところです。9 月の上旬には市教委としての方針を市民の皆様を示したところですが、今後そのための予算要求や具体的な道筋をたて本市の芸術振興策を具体化していきたいと思っております。これまで皆様にご論議いただいた内容をかみしめながら、今後の教育行政の執行に役立ててまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3 協 議（秋葉課長説明）

(1) 評価委員会意見の一部修正について

前回の委員会において意見の追加があったので文言の整理をした。報告書 14 頁

3 小中学校教育の充実

- ・「ことばの教室」の運営に関し、指導員の専門的知識などを向上させるため、十分な研修を保障するための予算措置について検討する必要がある。
- ・災害時における避難訓練や防災教育はこれまで以上に必要性を増している。市の防災対策に関し、小学校が河川のそばにあるため、市全体のハザードマップ作成や対策が示されれば、それに沿った防災教育も可能になる。

これに関連し 30 頁、「5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実」で前回は児童の避難訓練や防災教育に関する記述があったが、ただ今の防災教育に関する意見と一部重複することからこれを削った。各事業項目別の判定評価は、この修正を踏まえ、本委員会としての最終意見とする。

(2) 評価委員会のまとめ（案）について

評価委員会のまとめの文章については、前回各委員から出されたご意見を基に、原案を作成。

（3 頁を読み上げ）

評価委員会の全体のまとめについてはこの原案をもって決定。

(3) その他 なし

4 閉 会

平成 23 年度

教育行政執行方針

平成 23 年 6 月 24 日

平成23年度の教育行政執行方針をご審議いただくにあたり、その大綱を申し上げ、市議会並びに市民の皆様のご理解とご協力を得たいと考えます。

教育基本法は、「教育は人格の完成をめざし、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた、心身ともに健康な国民の育成にある」とその目的を指し示しており、教育の基本理念を明確にしているところであります。

これらの理念を踏まえ、市民の信頼と期待に応えるために必要な教育環境の整備を図り、教育の質を高めていくことは極めて重要であります。更なる地域人口の減少、少子高齢化の進行、地域社会の変化など厳しい状況にあっても、地域の暖かい眼差しの中で、夕張の未来を担う子供たちが人間性豊かで創造性にあふれ、心身ともにたくましく成長していくよう取り組んでいくとともに、夕張市民一人ひとりが生涯にわたって文化やスポーツに親しみ、学習し、生きがいを持って生活できる生涯学習社会を展望し教育行政の執行に努力してまいります。

「自然豊かな緑の大地と炭鉱（やま）の歴史、そこに住む市民の苦闘の歴史により築かれた郷土「夕張」に誇りをもち、自主・自立の精神に満ち溢れ、心豊かに共に支えあい、夢や希望に向かって逞しく生きる人を育む」ことを基本理念としながら、小・中学校1校化の方針に基づき、昨年には「夕張市立夕張中学校」が、本年4月には「夕張市立ゆうばり小学校」が開校いたしました。

小・中1校体制のもと、地域との連携、地域の方々との協働を通して、

夕張ならではの新しい学校づくりを進めてまいります。

第一には、教育活動の成果を診断・評価する「学校評価」を基に、その結果をPTA諸会議や学校だより等を通し、保護者・地域に公表しながらご意見をいただき、特色ある学校づくりに取り組むとともに、学校が保護者や地域住民の考えを把握し、学校運営に反映させ、地域の協力を得て学校運営を行うことが重要であるため、地域の代表、学識経験者、PTA役員などで構成する組織（仮称 夕張学校サポート会議）を立ち上げ、地域に開かれた学校を基盤として、児童・生徒の発達段階に応じ、地域の特性や課題をもとに、生命の尊重と、心のふれあいが大切にされる教育をめざします。

第二には、地域の教育力を活性化するため、夕張市全体で学校教育を支援する「学校支援地域本部事業」の活動を更に進め、地域に開かれた学校づくりを推進してまいります。

第三には、幼・小・中・高校間の連携を深めるため、各学校の代表等による検討組織（仮称 夕張市学校連携協議会）の立ち上げを図るとともに、学ぶことに楽しさや成就感をもち、基礎的・基本的な力を確実に定着させる学習指導の工夫充実、創意を生かし、活力に富む教育諸活動の充実に努めてまいります。

そのため、体験的な学習、地域の自然・社会の素材を活用した学習や総合的学習の時間を通して、地域の人々などの参加による学習活動の指導の充実に努めてまいります。

小学校にあっては、特別支援教育支援員等を活用し、子どもの発達段

階や実態に則し、いろいろな学習の機会を工夫して、学習した内容が確実に身につくような取り組みを進めるとともに、中学校では千歳市と連携し、デジタル教材やeラーニングシステムを活用した新しい授業を行うための教育環境の整備を進めてまいります。

読書活動につきましては、児童生徒が、より豊かに生きるために大切であることから、学校や家庭で読書に親しむ機会を増やすよう努めるとともに、図書コーナーと学校図書館との連携や巡回文庫の充実など、読むことに対する興味・関心を高めるための取り組みを進めてまいります。

「外国語活動」につきましては、外国語指導助手（ALT）の活用を通して、中学校での外国語教育の充実と小学校における国際理解・外国語活動の充実推進に努めてまいります。

生徒指導につきましては、子ども達が明るく、元気に学校生活を送れるように、教職員が一体となり、児童生徒の悩みや苦しみの早期発見、早期対応のために、常にコミュニケーションを図り、信頼関係を築きながら、行政・学校・家庭・地域の連携を更に深め、日常的な生徒指導研修等を通して情報の共有と専門性の活用を進めてまいります。

小・中学校の統合により、これまで交流の少なかった地域の児童生徒が一つの学校で学ぶことから、スムーズに環境の変化に適應し、よりよい人間関係が築かれるよう、また、いじめや、不登校の未然防止など、生徒指導の課題解決に向け、中1ギャップ未然防止事業などを活用した

取り組みを進めてまいります。

教材・教具、備品等教育条件整備及び学校の維持補修につきましては、財政再生計画を進めていく中で、児童生徒の学習活動に支障がないよう努めてまいります。

児童生徒の健康安全指導につきましては、生命の尊さ、体力の向上、運動能力の助長や健康で安全な生活を営む能力の育成のため、新たに加わる武道も含め体育授業の充実、学校安全並びに交通安全指導の推進について、地域・関係団体とも連携を深め進めてまいります。

児童生徒の通学の安全安心対策につきましては、ソフト面では岩見沢市と連携した児童見守りシステムや一斉同報サービスを導入したところであり、登下校情報等のサービス提供に努めるとともに、バス添乗員やバス停付近における「見守隊員」及び「見守りの家」の配置の充実や、高学年の児童が、低学年児童をサポートする体制の醸成に努めてまいります。ハード面の対策としては、信号機、横断歩道、バス停車帯などの交通安全施設の整備について関係機関に引き続き要請するとともに、バス待合所についても、引き続き財源確保を含め必要箇所の設置について検討してまいります。通学の安全確保については、これらハード・ソフト両面の対策の充実を図るとともに、市内各地域に結成されている自主防犯組織等とも連携を図り、児童・生徒が安全安心に通学できる体制を地域ぐるみで進めてまいります。

特別支援教育につきましては、対象児童生徒の宿泊学習を実施するな

ど、社会とのさまざまな交流の場を設けるとともに、障がいを持つ子どもたちの支援と指導のため関係機関の代表で構成している「夕張市就学指導委員会」での対応や「特別支援教育連携協議会」の設置など、指導の充実に努めてまいります。

学校保健につきましては、引き続き学校・保健所など関係機関と緊密に連携し、インフルエンザなど感染症の予防対策に努めてまいります。

学校給食につきましては、児童生徒の発達段階に即した献立の充実と、食に対する指導計画・実践を通して食育の充実を図り、学校・保健所など関係機関と緊密に連携し、食中毒など給食事故を防止し、子ども達に喜ばれる学校給食の提供に努めてまいります。

これら学校教育の充実のため、教職員が自らの使命と専門性を高めることの意義をふまえ、児童・生徒の学力向上に向け、日常の教育実践や工夫を積極的に進めるとともに、学校内外における授業研究と共同研究の推進、その公開等、研究・研修を充実し、教職員の資質向上に努めてまいります。

教職員人事につきましては、学校統合による激変緩和措置及び、学級編制基準や定数増の改善等を北海道教育委員会に要請するなどして、職員配置の適正化を図ってまいります。

教職員の健康管理では、生活習慣病や心の病の未然防止に努めるとともに、早期発見のための検査等を積極的に進め、疾病の早期治療を働き

かけてまいります。

ユーパロ幼稚園につきましては、地域の保育園、学校、福祉施設などとの交流を通し、様々な人々との触れ合い体験による社会性の育成や、「英語で遊ぶ」「自然に学ぶ」など「学び」と「遊び」を中心とした教育課程の充実を図るなど、魅力ある幼稚園づくりを通じ、引き続き園児の確保に努めてまいります。

次に社会教育の推進につきましては、第4次社会教育中期計画の方針に沿ってとり進めてまいります。

市民が心身ともに豊かで、健やかな、潤いのある生活を営むために、社会教育が果たす役割は大きなものがあると認識するものであり、文化団体・体育団体・各種の市民団体やサークル等との連携を図り、その活動を支援し、文化・芸術・スポーツの振興に努めてまいります。

社会教育の対象は幼児から高齢者まで極めて幅広く、そのニーズも多種多様なものがあります。しかしながら、厳しい状況の下にあっても、そのニーズに応えることもまた、教育行政に求められているところです。

生涯学習関係の市民グループや北海道教育大学岩見沢校の継続的な支援・協力による学習機会の提供と協働・連携し、とりくみを推進してまいります。

青少年教育につきましては、全市横断的な子どもとの交流を促すなかで、社会的ルールや思いやりの心を育てていくことが重要であると考えており、関係団体等とも連携しながら、その充実にあつめてまいります。

また、児童・生徒に対し、生の舞台芸術など優れた芸術作品に接する

機会を設けることにより、子どもたちの豊かな情操を育むため芸術鑑賞事業の充実に努めてまいります。

高齢者教育につきましては、引き続き「もも倶楽部（高齢者学級）」を開設し、生きがいや健康をテーマに、保健行政など関係機関とも連携して、講座の充実に努めてまいります。

文化財の保護・活用につきましては、貴重な動植物が生息する夕張岳の自然環境を守る活動や、夕張の歴史を語る施設や郷土資料を守る活動などを関係行政機関や市民団体と連携して情報の発信、啓発活動などに取り組んでまいります。また、夕張中学校の空教室を活用して整備している歴史資料室については、児童生徒の利用のみならず、広く市民に公開してまいります。

「図書コーナー」につきましては、蔵書の充実に努めるとともに、図書貸出業務のほか、読み聞かせ活動、巡回文庫、道立図書館の協力事業などを市民ボランティア組織等の協力をいただきながら、市民・子どもたちのための読書活動を推進します。また、昨年度導入したインターネットによる図書検索システムを活用し、道立図書館等との連携強化、運営の効率化、利用者の利便性の向上を図ってまいります。清水沢地区公民館での図書の貸出しについては、配置図書数の増に努め、利用者の利便性の向上と運営の充実に努めてまいります。

「美術館」につきましては、引き続き指定管理者による運営を行って

まいりますが、多くの収蔵作品があることから、市庁舎2階に開設している「ふるさとギャラリー」においてその一部を展示したり、小・中学校での展示など市民の鑑賞機会の提供に努めるとともに、所蔵作品の有効活用を図ってまいります。

文化スポーツセンター、テニスコート、平和運動公園、清水沢プールについては、市民の利用にとどまらず、市外のスポーツ愛好家も利用する貴重な体育施設であります。引き続き利用者への利便性を考慮しつつ、創意工夫を重ね、さらに積極的かつ合理的な管理運営を行うと共に、ネーミングライツによる新たな財源確保を図り、子どもからお年寄りまで、気軽に楽しくスポーツに親しむことができる施設運営を進めてまいります。

指定管理により運営されている清水沢健康会館、南部体育館、市営野球場、紅葉山パークゴルフ場につきましては、地域の貴重な体育施設であることから、引き続き指定管理者と連携し、運営の円滑化と利用促進を図ってまいります。

また、これら施設において開催されるスポーツ大会・イベント等の実施にあたっては、主催者や各種競技団体との連携を図りながら、必要な支援協力を行うなど、体育・スポーツの振興と施設の有効活用を推進してまいります。

教育委員会といたしましては、どんな厳しい状況下にあっても、故郷夕張の自然・歴史や風土の上に立って、新しい社会の変化に柔軟に対応

しながら、力強く、心豊かに生きていく子どもたちを育てること、そして夕張市民が文化・芸術・スポーツに触れ、様々な活動を通して学習し、毎日の生活を健康で明るく楽しむよう、市民の協力・協働の力をいただきながら、夕張教育の推進に努めてまいります。

市議会並びに市民各位の一層のご理解とご協力をお願い申し上げ、平成23年度の教育行政執行方針といたします。